

SilkTest 2010 R2

インストールガイド

Borland[®]
(A MICRO FOCUS COMPANY)

MICRO[®]
FOCUS
Leading the Evolution™

**Borland Software Corporation
4 Hutton Centre Dr., Suite 900
Santa Ana, CA 92707**

Copyright © Micro Focus IP Development Limited 2010-2011. All Rights Reserved. は Borland Software Corporation に由来する成果物を含んでいます。Copyright © Borland Software Corporation (a Micro Focus company) 2004-2011.

MICRO FOCUS, Micro Focusロゴ、及びその他は Micro Focus IP Development Limited またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

BORLAND, Borlandロゴ及び は Borland Software Corporation またはその米国、英国、その他の国に存在する子会社・関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

目次

概要	6
SilkTest 製品スイート.....	6
インストールの事前要件.....	6
デュアルブート マシン.....	6
管理者権限.....	7
Forte、PeopleSoft、または Developer 2000 拡張.....	7
データベース テスト機能.....	7
SilkTest に含まれる項目.....	7
SilkTest のライセンス	9
SilkTest ライセンス ポリシーの生成.....	9
ホスト ID の検索.....	9
SilkMeter のインストール.....	10
以前のバージョンの SilkMeter のアンインストール.....	10
ライセンス サーバーへの SilkMeter のインストール.....	10
ライセンス サーバーの設定の変更.....	12
SilkTest のインストール	13
インストールの前提条件.....	13
TEMP 環境変数の再設定.....	13
SilkTest 実行可能ファイルのダウンロード.....	14
SilkTest 製品スイートの標準インストール.....	14
SilkTest 製品スイートの完全インストール.....	18
SilkTest Workbench のインストール.....	22
サードパーティ製ブラウザ拡張の有効化.....	25
SilkTest Runtime または SilkTest Agent のインストール.....	25
Classic Agent for Unix のインストール.....	28
Silk4J のインストール.....	29
Silk4J Eclipse プラグインの手動インストール.....	32
Silk4NET のインストール.....	33
Silk4NET Visual Studio プラグインの手動インストール.....	36
SilkTest Classic のインストール.....	37
サンプル アプリケーションのインストール.....	40

デフォルトの SQL Server Express 2008 データベースのカスタマイズ.....	40
SilkTest のアンインストール.....	41
SilkTest のサイレント モード インストール.....	42
サイレント インストールのプロパティ ファイルの作成.....	42
サイレント インストーラの設定.....	44
サイレント モードでのインストール.....	47
サイレント インストーラの成功の確認.....	48
エラー コードの参照.....	49
サイレント モードでのアンインストール.....	50
次に実行すること.....	51
SilkTest Workbench データベースの構成.....	52
SQL Server データベースの構成の概要.....	52
SQL Server データベースの新規作成.....	53
SQL Server 管理ユーザーの新規作成.....	53
SQL Server におけるユーザーの設定.....	54
SQL Server SilkTest Workbench データベースの準備.....	55
Oracle データベースの構成の概要.....	55
認証方式の選択.....	56
Oracle データベースの新規作成.....	58
Oracle 認証の設定.....	58
Oracle クライアントの設定.....	59
クライアント接続用の Oracle データベースの準備.....	59
SilkTest Workbench のユーザーの設定.....	60
パスワード認証スキーマの作成.....	61
Oracle データベースの準備.....	61
ドメインなしでの SQL Server または Oracle データベースの設定.....	61
ドメインなしでのユーザーの作成.....	62
ドメインなしでの SQL Server の設定.....	62
ドメインなしでの Oracle データベースの設定.....	63
データ ソース名の作成の概要.....	63
Access データベース用のデータ ソース名の作成.....	63
SQL Server データベース用のデータ ソース名の作成.....	64
Oracle データベース用のデータ ソース名の作成.....	65
データベースへの接続の概要.....	66
ログオン.....	66

ログオン パスワードの変更.....	66
データベース接続の構成.....	66

概要

このヘルプでは、SilkTestのインストールとアンインストールに必要なすべての情報を提供します。ハードウェア要件とソフトウェア要件について説明し、さまざまな設定オプションの詳細について説明します。

SilkTest 製品スイート

SilkTest 製品スイートには、以下のコンポーネントが含まれています。

- SilkTest Workbench : SilkTest Workbench は、新しいネイティブ品質テスト環境です。上級者用の .NET スクリプトと、テストのアクセス可能性を高める革新的なストーリーボードベースのビジュアルテストが提供されます。
- Silk4NET : Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 Visual Basic または C# のテスト スクリプトを作成できます。
- Silk4J : Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。
- SilkTest Recorder : SilkTest Recorder を使用すると、GUI を使用してテストを記録および再生し、それらのテストを SilkTest Classic、Silk4J、または Silk4NET にエクスポートできます。
- SilkTest Classic : SilkTest Classic は、従来の 4Test SilkTest 製品です。
- SilkTest Agent : SilkTest Agent は、テストのコマンドを GUI 固有のコマンドに変換するソフトウェア プロセスです。つまり、テストするアプリケーションをエージェントが動かし、監視しています。ホストマシン上で 1 つのエージェントをローカルに実行できます。ネットワーク環境では、任意の数のエージェントをリモート・マシン上で実行できます。

インストールする製品スイートによって、使用できるコンポーネントが決まります。すべてのコンポーネントをインストールするには、完全インストール オプションを選択します。SilkTest Classic を除くすべてのコンポーネントをインストールするには、標準インストール オプションを選択します。

インストールの事前要件

ソフトウェアやハードウェアの要件、その他の前提条件に関する情報については、SilkTest のリリース ノートを参照してください。

デュアルブート マシン

SilkTest をインストールする際に、複数の Windows オペレーティング システム（Windows Vista と Windows XP など）を備えたデュアルブート マシンがある場合、2 つのオペレーティング システムの異なるディレクトリに SilkTest をインストールする必要があります。このようにしない場合、アンインストール プログラムで問題が発生することがあります。たとえば、デュアルブート マシンの Windows Vista と

Windows XP の両方のパーティションに SilkTest をインストールする場合、それぞれ C:¥silkvista と D:¥silknt にインストールします。

管理者権限

SilkTest をインストールするには、ローカルの管理者権限を持っている必要があります。SilkTest が正しくインストールされたあと、SilkTest を実行するためにも、管理者権限が必要となります。

Forte、PeopleSoft、または Developer 2000 拡張

SilkTest をインストールする際に、現在 Forte、PeopleSoft、または Developer 2000 拡張を使用している場合は、SilkTest をアンインストールする前に、関連するファイルを現在の SilkTest インストール ディレクトリから別の場所にコピーします。SilkTest によってこれらの拡張はサポートされなくなります。引き続き使用することはできますが、SilkTest によってこれらの拡張はインストールされないため、現在のバージョンの SilkTest をアンインストールする前に適切なファイルを保存する必要があります。SilkTest をインストールしたあと、使用している未サポートの拡張に関連するファイルを <SilkTest インストール ディレクトリ>/extend にコピーします。

データベース テスト機能

データベース テスト機能（名前が DB_ で始まる機能）を使用するには、ODBC バージョン 3 がインストールされている必要があります。

また、SilkTest が見つけられるように、odbc32.dll (SQL Server) や sqora32.dll (Oracle) などの ODBC ドライバがパス上または System ディレクトリ内にある必要があります。この DLL の名前は、ODBC ドライバの仕様やベンダーによって異なる場合があります。

SilkTest に含まれる項目

SilkTest をインストールすると、以下の項目を利用できます。

- SilkTest Workbench
- SilkTest Classic
- SilkTest Agent
- SilkTest Recorder
- Silk4NET
- Silk4J
- オンライン ヘルプ トピック

各製品の **ヘルプ** メニューからヘルプにアクセスします。

- リリース ノート

リリース ノートには、**スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ リリース ノート** から、または Technical Publications 領域 http://techpubs.borland.com/silk_gauntlet/SilkTest/ からアクセスします。

- チュートリアル

チュートリアルには、**ヘルプ ▶ チュートリアル** および **スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ ドキュメント ▶ SilkTest チュートリアル** からアクセスします。

PDF ドキュメントを表示するには、Adobe Acrobat Reader™ が必要です。

- インストール可能なサンプル アプリケーション

サンプル アプリケーションを http://techpubs.borland.com/silk_gauntlet/SilkTest/ からダウンロードしてインストールします。サンプル アプリケーションには以下のものがあります。

テクノロジー プラットフォー ム サンプル アプリケーション名	
Java AWT	AWT テスト アプリケーション
Java Swing	Swing テスト アプリケーション
Java SWT	SWT テスト アプリケーション 3.2、3.3、3.4、3.5、および 3.6、SWT テスト アプリケーション (IBM)、SWT テスト アプリケーション (SUN)
Microsoft .NET	Windows フォーム サンプル アプリケーション 3.5 および 4.0、WPF サンプル アプリケーション 3.5 および 4.0、WPF 電卓 3.5、WPF メモ帳 3.5、.NET 1.1 テスト アプリケーション、.NET 2.0 テスト アプリケーション
Win32	簡体字中国語テスト アプリケーション (32 ビットおよび 64 ビット)、テスト アプリケーション (32 ビットおよび 64 ビット)、テキスト エディタ (32 ビット)

- オンラインでアクセス可能なサンプル アプリケーション

- Adobe Flex サンプル アプリケーション

Flex サンプル アプリケーションには <http://demo.borland.com/flex/SilkTest2010R2/index.html> でアクセスします。

- Insurance Company Web アプリケーション

Insurance Company Web アプリケーションは SilkTest Workbench および SilkTest Classic のチュートリアルで使用します。Web アプリケーションには <http://demo.borland.com/InsuranceWebExtJS/> でアクセスできます。

- Green Mountain Outpost (GMO) Web アプリケーション


GMO アプリケーションは SilkTest Classic のチュートリアルで使用します。Web アプリケーションには <http://demo.borland.com/gmopost> でアクセスできます。

- SQL Server Management Studio

Microsoft SQL Server Management Studio を必要に応じて SilkTest ダウンロード Web ページからダウンロードして、SQL Server を構成および管理できます。

SilkTest のライセンス

このセクションでは、SilkTest のライセンス ポリシーの取得方法と、SilkMeter のインストール方法について説明します。SilkMeter をインストールするには、管理者権限を持っている必要があります。

 **注:** SilkTest には、SilkMeter バージョン 2008 以降と、SilkTest ライセンス ポリシーが必要です。

SilkMeter のインストールは、ライセンス サーバー 1 つにつき 1 回です。複数のライセンス サーバーを持っている場合には、複数のライセンス ポリシー ファイルが必要となります。各ファイルは、それぞれ特定のライセンス サーバーに関連付けられています。1 つの SilkMeter ライセンス サーバーが、複数の製品のためのライセンス ポリシーを処理することができます。

SilkTest ライセンスポリシーを既にお受け取りの場合には、そのライセンスポリシーをライセンスサーバー上へインストールしてください。ライセンスポリシーをまだ受け取っていない場合には、ライセンスポリシーを生成します。


SilkTest ライセンス ポリシーの生成

SilkTest を実行するにはライセンスポリシーが必要です。オンラインのLicense Generator を使用してライセンスポリシーを生成できます。オンラインの License Generator には、Firefox や Internet Explorer などの SSL 対応ブラウザが必要です。ライセンスポリシーの生成方法に関する指示が含まれた電子メールを受け取ります。これらの指示がなかった場合は、<http://support.microfocus.com> でカスタマー ケアにお問い合わせください。

ホスト ID の検索

1. ライセンス サーバー上でコマンド プロンプトを開き、コマンド `ipconfig/all` を入力します。ライセンスサーバーが、接続アドレスを一覧表示します。
2. ホスト ID (お使いの LAN カードの MAC アドレスまたは物理アドレス) を確認してください (例: 00-BF-00-1C-D3-3D)。

SilkTest のためのライセンスポリシーを取得するには、この情報を入力する必要があります。

 **ヒント:** システムの設定によっては (仮想マシンや VPN 接続を含む)、複数の MAC アドレスをお持ちの場合もあります。実際の LAN カードのホスト ID であることを確認してください。

SilkMeter のインストール

SilkTest ライセンス ポリシーをお持ちの場合には、SilkMeter をインストールする際に、そのポリシーをインストールすることができます。SilkTest ライセンス ポリシーを取得するには、Online License Generator にアクセスして、ライセンス ポリシーを生成します。

SilkTest ライセンス ポリシーは、SilkMeter をライセンス サーバー上にインストールする時点で、必須というわけではありません。SilkMeter の **User Policy Administrator** を使用して、SilkTest ライセンス ポリシーを後からインポートすることも可能です。ただし、ライセンス ポリシーは SilkTest を実行する前にインポートする必要があります。

SilkMeter のインストールは、ライセンス サーバー 1 つにつき 1 回です。複数のライセンス サーバーを持っている場合には、複数のライセンス ポリシー ファイルが必要となります。各ファイルは、それぞれ特定のライセンス サーバーに関連付けられています。1 つの SilkMeter ライセンス サーバーが、複数の製品のためのライセンス ポリシーを処理することができます。


SilkMeter ライセンス サーバーの要件

SilkMeter をインストールする前に、リリースノートでライセンス サーバーが要件を満たしていることを確認してください。

以前のバージョンの SilkMeter のアンインストール

SilkMeter が既にライセンス サーバー上にインストールされている場合には、最新バージョンの SilkMeter をインストールする前に、それをアンインストールしなければなりません。

1. **スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkMeter ▶ Uninstall** を選択します。
2. **Yes** をクリックして、SilkMeter をアンインストールします。
Remove Settings ダイアログ ボックスが開きます。
3. **No** をクリックした場合には、SilkMeter の設定が保持されます。

 **注目:** 現在、SilkMeter ライセンス サーバー上に存在するライセンス ポリシーを維持するには、**No** をクリックしなければなりません。

4. コンピュータを再起動します。

SilkMeter はアンインストールされ、これで、最新バージョンの SilkMeter をインストールする準備ができました。

ライセンス サーバーへの SilkMeter のインストール


SilkMeter をインストールする前に、次の情報を確認します。

- お使いのユーザー アカウントが管理者権限を持っていること。
 - SilkMeter のインスタンスが、ライセンス サーバー上にインストールされていないこと。
1. SilkMeter 実行可能ファイル SilkMeter.exe を探し、以下に従い、順次ステップを実行していきます。

- SilkTest CD をお持ちの場合、CD を挿入します。セットアッププログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<cddrive>:¥SilkMeter¥SilkMeter.exe** を入力して、SilkMeter セットアッププログラムを手動で開始します。
- ダウンロードした SilkMeter をお持ちの場合、次のステップを実行します。
 1. EXE ファイルが保存された場所まで移動します。
 2. EXE ファイルをダブルクリックします。
- SilkMeter をダウンロードする場合、次のステップを実行します。
 1. <http://www.borland.com/downloads/lservers/silkmeter/index.html> にアクセスします。
 2. **SilkMeter 2008** をクリックし、続いて、**保存** をクリックします。
 3. このファイルを保存する場所を指定して、**保存** をクリックします。
 代替方法 : ブラウザから EXE ファイルをダブルクリックして、ファイルを実行します。
 4. EXE ファイルが保存された場所まで移動します。
 5. EXE ファイルをダブルクリックします。

InstallShield ウィザードが開きます。

2. **Next** をクリックし、続行します。
 セットアップが、ファイルを一時ディレクトリに抽出します。
3. **Next** をクリックし、続行します。
使用許諾契約 が開きます。
4. 使用権の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**Yes** をクリックし、続行します。
Enter Installation Path and Configuration Directory for SilkMeter Runtime ページが開きます。
5. **Next** をクリックすると、SilkMeter をデフォルトディレクトリにインストールし、デフォルト設定フォルダ ¥cfg を使用します。
Enter Host Name ページが開きます。
6. Hostname と Port を入力または確認し、**Next** をクリックします。

 **注:** ここでのホスト名は、SilkMeter がインストールされるコンピュータの名前です。

Select Program Folder ページが開きます。

7. **Program Folders** テキストボックスで、デフォルトプログラム フォルダである **Silk¥SilkMeter** をそのまま利用するか、別のプログラム フォルダを指定し、**Next** をクリックして続行します。
 セットアップが、SilkMeter をインストールします。完了すると、**Install SilkMeter Policy** ページが開きます。
8. 次の手順の 1 つを実行します。
 - SilkTest ライセンス ポリシーを既にお持ちの場合、**[...]** をクリックして、SilkTest ライセンス ポリシー ファイル license.pol を保存した場所までたどっていき、**Open** をクリックします。**Finish** をクリックして、SilkTest ライセンス ポリシーをインストールします。
 - SilkTest ライセンス ポリシーをまだ持っていない場合は、**Finish** をクリックします。SilkTest ライセンス ポリシーは、後で受け取った際にインポートすることができます。SilkTest ライセンス ファ


イルをインポートするための手順については、Online License Generator や SilkMeter Runtime のヘルプから確認することができます。

View Release Notes ページが開きます。

9. **Yes** をクリックして SilkMeter リリース ノートを表示するか、**No** をクリックしてリリース ノートを表示せずにインストールを続行します。

InstallShield Wizard Complete ページが開きます。

10. **Finish** をクリックしてインストールプロセスを完了させます。

 **重要:** セットアップによって、コンピュータを再起動するようプロンプトが表示された場合には、必ず行うようにしてください。


ライセンス サーバーの設定の変更

Select SilkMeter License Server ユーティリティを使用して、ライセンス サーバーの構成を変更または修復します。このユーティリティは、SilkTest のインストール時に一緒にインストールされ、ローカル システム内に SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンス サーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合には、**Select SilkMeter License Server** ダイアログ ボックスにデフォルトの設定が表示されます。

1. **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **SilkTest** > **管理ツール** > **ライセンス サーバー構成の変更** を選択します。

Select SilkMeter License Server ユーティリティが開きます。

2. **Application** リスト ボックスで、ライセンス サーバーを設定する製品を選択します。
3. **Using local or remote server** オプション ボタンをクリックして、SilkMeter ライセンス サーバーを設定します。
4. **License Server Host** テキスト ボックスに、SilkMeter ライセンス サーバーのコンピュータ名を入力します。
ネットワーク管理者が別のポートを定義したのでない限り、**Port Number** は変更しないでください。
5. **Apply** をクリックして、ライセンス サーバーの構成を生成します。
6. **Test connection** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。
接続が成功した場合には、**Status** テキスト ボックスに SUCCESS メッセージが表示されます。

 **注:** 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンス サーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

7. **Close** をクリックして、ライセンス サーバーの構成を完了させます。

SilkTest のインストール

このセクションでは、SilkTest をインストールするときに使用できる設定オプションについて説明します。

インストールの前提条件

SilkTest をインストールする前に、以下の情報を確認してください。

- ユーザー アカウントにはローカルの管理者権限があります。
- ファイル `msvcp60.dll` が Windows System32 ディレクトリ (`windows¥system32` または `winnt¥system32`) にインストールされています。

このファイルは、標準の Windows インストールの一部として自動的にインストールされます。`msvcp60.dll` が System32 ディレクトリにない場合は、Windows エクスプローラを使用して検索し、System32 ディレクトリにコピーします。このファイルが見つからない場合は、インストール CD で検索するか、最新のサービスパックにアップグレードします。

- Windows 2008 R2 64 ビット マシンでは、.NET 3.5 SP1 がインストールされていることを確認してください。

.NET Framework 3.5.1 の機能 が、**サーバー マネージャ** の **機能の追加ウィザード** からインストールできます。または、Microsoft の Web サイトからダウンロードできます。

- Windows Vista SP1 マシンでは、SilkTest のインストール中に SQL Server 2008 をインストールする場合、.NET 3.5 SP1 の完全バージョンがインストールされていることを確認してください。この要件を満たさない場合は、SQL Server Express がインストールされません。.NET 3.5 SP1 の完全バージョンをインストールするには、Microsoft の Web サイトからダウンロードします。
- SilkTest Workbench を SilkCentral Test Manager (SCTM) と統合する場合は、SCTM をインストールする前に SilkTest Workbench をインストールしてください。このようにしない場合、SCTM からテストを実行したときにエラーが発生します。

TEMP 環境変数の再設定

Windows の `TEMP` 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、`TEMP` 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

1. **スタート ▶ 設定 ▶ コントロール パネル** を選択します。
2. **システム** をダブルクリックします。
3. **詳細設定** タブを選択し、**環境変数** をクリックします。
4. **ユーザー環境変数** または **システム環境変数** の下の `TEMP` 変数をダブルクリックします。

5. 有効なディレクトリを入力して、**OK** をクリックします。
6. EXE ファイルをダブルクリックして、SilkTest のインストールを再び開始します。

SilkTest 実行可能ファイルのダウンロード

インストール CD を持っていない場合には、SilkTest 実行可能ファイルをダウンロードします。

1. <http://supportline.microfocus.com/> に移動します。
2. **User Name** および **Password** テキスト ボックスに、顧客 ID およびパスワードを入力します。
3. **Submit** をクリックし、インストールする SilkTest のバージョンに移動して選択します。
4. このファイルを保存する場所を指定して、**Save** をクリックします。
(その他) : ブラウザから EXE ファイルをダブルクリックして、ファイルを実行します。


実行可能ファイルを使用して、SilkTest をインストールします。

SilkTest 製品スイートの標準インストール

作業を開始する前に、SilkTest の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

SilkTest Workbench、SilkTest Agent、SilkTest Recorder、Silk4J、および Silk4NET を含む、SilkTest の標準インストールをインストールします。標準インストールでは、テストの記録、テストスクリプトの作成、テストの実行、およびテスト結果の表示を行うことができます。

1. SilkTest の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。
SilkTest CD を持っている場合は、CD を挿入します。セットアッププログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<CD ドライブ>:¥setup.exe** を入力して、SilkTest セットアッププログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の *TEMP* 環境変数がある有効なディレクトリを指していない場合は、エラーメッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数がある有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallAnywhere ウィザードが開きます。

2. 以前にインストールした SilkTest のバージョンがある場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。
以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。
使用許諾契約 が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
5. **次へ** をクリックします。
インストールセットの選択 ページが開きます。

6. リストから **標準** が選択されていることを確認します。

標準インストールでは、テストの記録、テスト スクリプトの作成、テストの実行、およびテスト結果の表示を行うことができます。これはデフォルトの設定です。

7. ショートカット アイコンを追加するには、以下のチェック ボックスのいずれか、または両方をオンにします。

- **デスクトップに追加** : デスクトップにアイコンを追加します。
- **クイック起動バーに追加** : クイック起動ツールバーにアイコンを追加します。

8. **次へ** をクリックします。

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition ページが開きます。

9. デフォルトの Microsoft SQL Server 2008 Express Edition データベースをインストールするかどうかを指定します。

SilkTest Workbench にはデータベースが必要です。デフォルトのデータベースをインストールしないことを選択した場合は、サポート対象のデータベースを構成する必要があります。詳細については、「*SilkTest Workbench データベースの構成*」を参照してください。また、SilkTest Workbench をインストールする前に、デフォルトの SQL Server 2008 Express データベースをカスタマイズできます。詳細については、「*デフォルトの SQL Server Express 2008 データベースのカスタマイズ*」を参照してください。

10. **次へ** をクリックします。


インストール フォルダの選択 ページが開きます。

11. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します :

- a) **選択** を選択します。

フォルダーの参照 ダイアログ ボックスが開きます。

- b) SilkTest をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

 **注:** SilkTest は、ローカル ドライブにインストールする必要があります。無効なインストール先を指定した場合は、エラー メッセージが表示されます。

場所が **インストールする場所を指定してください** テキスト ボックスに表示されます。

12. **次へ** をクリックします。

Silk4J へようこそ ページが開きます。

13. Silk4J をインストールするときに新しい Eclipse 環境をインストールするかどうかを指定します。

- a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **Eclipse (92MB) をダウンロードして Silk4J をインストール** : Silk4J および Eclipse 3.5 環境をインストールするには、このオプションをクリックします。
- **既存の Eclipse 環境を使用して Silk4J をインストール** : Silk4J で既存の Eclipse 環境を使用するには、このオプションをクリックします。 **参照** をクリックして、使用する Eclipse 環境に移動します。
- **Silk4J を手動でインストール** : Silk4J を Eclipse 環境に手動でインストールするには、このオプションをクリックします。 dropins という名前のフォルダが SilkTest インストール ディレクトリに作成されます。このフォルダを有効な Eclipse ディレクトリにコピーして Silk4J を使用します。

- b) **次へ** をクリックします。

インストールが完了したら、**スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ Silk4J**を選択して Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンラインヘルプを参照してください。

14. 既存の Visual Studio 環境で使用するよう Silk4NET をインストールするかどうかを指定します。

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテストスクリプトを作成できます。

a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **既存の Visual Studio 2010 環境を使用して Silk4NET をインストール** : 既存の Visual Studio 2010 環境を使用するには、このオプションをクリックします。
- **Silk4NET を手動でインストール** : Silk4NET のインストールをあとで完了するには、このオプションをクリックします。Visual Studio 2010 がマシンにインストールされていない場合は、このオプションを選択する必要があります。方法については、このマニュアルの「*Silk4NET Visual Studio プラグインの手動インストール*」を参照してください。

b) **次へ** をクリックします。

Visual Studio を起動すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。

15. Windows ファイアウォール例外を作成するかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。


a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **はい** : セットアップですべての SilkTest 実行可能ファイルに対して例外を作成します。この結果、実行可能ファイルを起動したときにそれをブロックするか許可するかのプロンプトは表示されません。
- **いいえ** : SilkTest 実行可能ファイルを起動したときにプロンプトが表示されます。

b) **次へ** をクリックします。

16. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います :

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

 **ヒント:** ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp であり、e:¥SilkTest にインストールしている場合に、E ドライブにはインストールに十分な領域があるが、D ドライブが制限の要因となります。

ステータスバーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**ライセンスモードの選択** ページが開きます。

17. 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **評価版** SilkTest の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。あとから、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **完全版** : ライセンスが必要な SilkTest の無制限版をインストールします。

18. ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを行います：


a) **ライセンス サーバーを設定します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンスサーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

b) **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス管理をするアプリケーションとして **SilkTest** を選択します。


c) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

ローカルまたはリモートサーバーを使用する **ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではないかぎり、デフォルト ポート番号 **5461** は変更しないでください。**適用** をクリックして、ライセンス サーバーの設定を生成します。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

 **注:** 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**はい** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

d) **閉じる** をクリックします。

 **注:** リモート SilkMeter ライセンス サーバーを使用して SilkTest を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行** を選択して **ping localhost** または **ping <license server name>** を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

インストール完了 ページが開きます。

19. **完了** をクリックします。


SilkTest 製品スイートの完全インストール

作業を開始する前に、SilkTest の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

SilkTest の完全インストールをインストールします。完全インストールには、SilkTest Workbench、SilkTest Open Agent、SilkTest Recorder、Silk4J、および Silk4NET 以外に、SilkTest Classic、Classic Agent、および Silk TrueLog Explorer が含まれています。

1. SilkTest の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

SilkTest CD を持っている場合は、CD を挿入します。セットアッププログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<CD ドライブ>:¥setup.exe** を入力して、SilkTest セットアッププログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の TEMP 環境変数がある有効なディレクトリを指していない場合は、エラーメッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、TEMP 環境変数がある有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallAnywhere ウィザードが開きます。

2. 以前にインストールした SilkTest のバージョンがある場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。

以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。

3. **次へ** をクリックします。

使用許諾契約 が開きます。

4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。


5. **次へ** をクリックします。

インストールセットの選択 ページが開きます。

6. リストから **完全** を選択します。

完全インストールでは、テストの記録、テスト スクリプトの作成、テストの実行、およびテスト結果の表示を行うことができます。

SilkTest Runtime 以外の各オプションの隣にチェックマークが表示されます。

 **注:** 完全インストールには SilkTest の Windows および .NET 拡張キットが含まれています。これらは SilkTest Classic Agent のインストールの一部として含まれています。

7. ショートカットアイコンを追加するには、以下のチェックボックスのいずれか、または両方をオンにします。

- **デスクトップに追加** : デスクトップにアイコンを追加します。
- **クイック起動バーに追加** : クイック起動ツールバーにアイコンを追加します。

8. **次へ** をクリックします。

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition ページが開きます。

9. デフォルトの Microsoft SQL Server 2008 Express Edition データベースをインストールするかどうかを指定します。

SilkTest Workbench にはデータベースが必要です。デフォルトのデータベースをインストールしないことを選択した場合は、サポート対象のデータベースを構成する必要があります。詳細については、「*SilkTest Workbench データベースの構成*」を参照してください。また、SilkTest Workbench をインストールする前に、デフォルトの SQL Server 2008 Express データベースをカスタマイズできます。詳細については、「*デフォルトの SQL Server Express 2008 データベースのカスタマイズ*」を参照してください。

10. **次へ** をクリックします。


インストール フォルダの選択 ページが開きます。


11. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します：

- a) **選択** を選択します。

フォルダーの参照 ダイアログ ボックスが開きます。

- b) SilkTest をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

 **注:** SilkTest と SilkTest Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

 **注:** SilkTest は、ローカル ドライブにインストールする必要があります。無効なインストール先を指定した場合は、エラー メッセージが表示されます。

場所が **インストールする場所を指定してください** テキスト ボックスに表示されます。

12. **次へ** をクリックします。

Silk4J へようこそ ページが開きます。

13. Silk4J をインストールするときに新しい Eclipse 環境をインストールするかどうかを指定します。

- a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **Eclipse (92MB) をダウンロードして Silk4J をインストール** : Silk4J および Eclipse 3.5 環境をインストールするには、このオプションをクリックします。
- **既存の Eclipse 環境を使用して Silk4J をインストール** : Silk4J で既存の Eclipse 環境を使用するには、このオプションをクリックします。 **参照** をクリックして、使用する Eclipse 環境に移動します。
- **Silk4J を手動でインストール** : Silk4J を Eclipse 環境に手動でインストールするには、このオプションをクリックします。 dropins という名前のフォルダが SilkTest インストール ディレクトリに作成されます。このフォルダを有効な Eclipse ディレクトリにコピーして Silk4J を使用します。

- b) **次へ** をクリックします。

インストールが完了したら、**スタート > すべてのプログラム > Silk > SilkTest 2010 R2 > Silk4J** を選択して Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンライン ヘルプを参照してください。

14. 既存の Visual Studio 環境で使用するよう Silk4NET をインストールするかどうかを指定します。

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテスト スクリプトを作成できます。

- a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **既存の Visual Studio 2010 環境を使用して Silk4NET をインストール** : 既存の Visual Studio 2010 環境を使用するには、このオプションをクリックします。
- **Silk4NET を手動でインストール** : Silk4NET のインストールをあとで完了するには、このオプションをクリックします。 Visual Studio 2010 がマシンにインストールされていない場合は、このオプションを選択する必要があります。方法については、このマニュアルの「*Silk4NET Visual Studio プラグインの手動インストール*」を参照してください。

b) **次へ** をクリックします。

Visual Studio を起動すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。

- 15.** Classic Agent でブラウザ アプリケーションをテストするとき使用するデフォルトの言語を選択します。

あとで別の言語に切り替えるには、ヘルプを参照してください。


選択した言語のブラウザ インクルード (.inc) ファイルは、<SilkTest install>%Extend ディレクトリにインストールされます。すべてのブラウザ インクルード ファイルは、<SilkTest Install>%Locale ディレクトリにインストールされます。

- 16.** Web アプリケーションのテスト用のデフォルトのブラウザを確認し、**次へ** をクリックします。


このダイアログのオプションは、マシンのブラウザ設定に基づいてセットアップ プログラムによって事前を選択されています。たとえば、Internet Explorer を使用している場合は、マシンにインストールされている IE のバージョンが表示されます。

SilkTest Classic に対して別のデフォルトのブラウザを指定するには、適切なブラウザを選択します。Web アプリケーションをテストしない場合は、**なし** を選択し、**次へ** をクリックします。

選択内容にかかわらず、この設定はあとで SilkTest Classic で変更できます。デフォルトのブラウザまたはブラウザ拡張をインストール後に変更する方法については、SilkTest Classic のヘルプを参照してください。

 **注:** デフォルトのブラウザが Internet Explorer の場合は、ブラウザのサードパーティ製拡張が有効になっていないというメッセージが表示される場合があります。SilkTest Classic でブラウザ ページ内のオブジェクトを認識できるようにするには、このオプションを有効にする必要があります。このオプションを有効にしてからインストールを続行するか、インストールが完了したあとでこのオプションを有効にすることができます。

- 17.** Windows ファイアウォール例外を作成するかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。


a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **はい** : セットアップですべての SilkTest 実行可能ファイルに対して例外を作成します。この結果、実行可能ファイルを起動したときにそれをブロックするか許可するかのプロンプトは表示されません。
- **いいえ** : SilkTest 実行可能ファイルを起動したときにプロンプトが表示されます。

b) **次へ** をクリックします。

- 18.** 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います :

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

 **ヒント:** ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp であり、e:¥SilkTest にインストールしている場合に、E ドライブにはインストールに十分な領域があるが、D ドライブが制限の要因となります。

ステータスバーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**ライセンスモードの選択** ページが開きます。

19. 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **評価版** SilkTest の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。あとから、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **完全版** : ライセンスが必要な SilkTest の無制限版をインストールします。

20. ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを行います :


a) **ライセンス サーバーを設定します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンスサーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

b) **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス管理をするアプリケーションとして **SilkTest** を選択します。


c) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する **ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではないかぎり、デフォルト ポート番号 **5461** は変更しないでください。**適用** をクリックして、ライセンス サーバーの設定を生成します。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

 **注:** 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。


スタンドアロン ライセンスを使用する SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**はい** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

d) **閉じる** をクリックします。

 **注:** リモート SilkMeter ライセンス サーバーを使用して SilkTest を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行** を選択して **ping localhost** または **ping <license server name>** を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

インストール完了 ページが開きます。

21. インストールを完了するためにシステムを再起動するかどうかを指定し、**完了** をクリックします。


 **注目:** SilkTest Classic を正しく機能させるには、コンピュータを再起動する必要があります。

SilkTest Workbench のインストール

SilkTest Workbench は、新しいネイティブ品質テスト環境です。上級者用の .NET スクリプトと、テストのアクセス可能性を高める革新的なストーリーボードベースのビジュアルテストが提供されます。SilkTest Workbench は、完全インストールまたは標準インストールを選択すると、自動的にインストールされます。基本インストールを選択した場合は、他のコンポーネントをインストールしないで SilkTest Workbench をインストールできます。SilkTest Workbench をインストールすると、Open Agent もインストールされます。SilkTest Workbench を実行するには、Open Agent が必要です。

1. SilkTest の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

SilkTest CD を持っている場合は、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<CD ドライブ>:¥setup.exe** を入力して、SilkTest セットアップ プログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallAnywhere ウィザードが開きます。

2. 以前にインストールした SilkTest のバージョンがある場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。

以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。

3. **次へ** をクリックします。

使用許諾契約 が開きます。

4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。

5. **次へ** をクリックします。

インストール セットの選択 ページが開きます。

6. リストから **基本** を選択します。

基本インストールでは、SilkTest Workbench、SilkTest Recorder、および Open Agent がインストールされます。

7. ショートカットアイコンを追加するには、以下のチェックボックスのいずれか、または両方をオンにします。

- **デスクトップに追加** : デスクトップにアイコンを追加します。
- **クイック起動バーに追加** : クイック起動ツールバーにアイコンを追加します。

8. **次へ** をクリックします。

Microsoft SQL Server 2008 Express Edition ページが開きます。

9. デフォルトの Microsoft SQL Server 2008 Express Edition データベースをインストールするかどうかを指定します。

SilkTest Workbench にはデータベースが必要です。デフォルトのデータベースをインストールしないことを選択した場合は、サポート対象のデータベースを構成する必要があります。詳細については、「*SilkTest Workbench データベースの構成*」を参照してください。また、SilkTest Workbench をインストールする前に、デフォルトの SQL Server 2008 Express データベースをカスタマイズできます。詳細については、「*デフォルトの SQL Server Express 2008 データベースのカスタマイズ*」を参照してください。

10. **次へ** をクリックします。


インストール フォルダの選択 ページが開きます。


11. デフォルトのインストールディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します :

a) **選択** を選択します。

フォルダーの参照 ダイアログ ボックスが開きます。

b) SilkTest をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

 **注:** SilkTest と SilkTest Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

 **注:** SilkTest は、ローカルドライブにインストールする必要があります。無効なインストール先を指定した場合は、エラーメッセージが表示されます。

場所が **インストールする場所を指定してください** テキスト ボックスに表示されます。

12. **次へ** をクリックします。

ファイアウォールの例外 ページが開きます。

13. Windows ファイアウォール例外を作成するかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。


a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **はい** : セットアップですべての SilkTest 実行可能ファイルに対して例外を作成します。この結果、実行可能ファイルを起動したときにそれをブロックするか許可するかのプロンプトは表示されません。
- **いいえ** : SilkTest 実行可能ファイルを起動したときにプロンプトが表示されます。

b) **次へ** をクリックします。

14. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います :

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

 **ヒント**: ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:\temp であり、e:\SilkTest にインストールしている場合に、E ドライブにはインストールに十分な領域があるが、D ドライブが制限の要因となります。

ステータスバーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**ライセンスモードの選択** ページが開きます。

15. 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **評価版** SilkTest の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。あとから、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **完全版** : ライセンスが必要な SilkTest の無制限版をインストールします。

16. ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを行います :


a) **ライセンス サーバーを設定します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンスサーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

b) **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス管理をするアプリケーションとして **SilkTest** を選択します。

c) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。


ローカルまたはリモートサーバーを使用する **ライセンスサーバーホスト** テキストボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではないかぎり、デフォルトポート番号 **5461** は変更しないでください。**適用** をクリックして、ライセンスサーバーの設定を生成します。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンスサーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェアパッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

 **注**: 場合により、**ライセンスサーバーホスト** テキストボックスに、ライセンスサーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on

the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**はい** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

d) **閉じる** をクリックします。

 **注:** リモート SilkMeter ライセンス サーバーを使用して SilkTest を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行** を選択して **ping localhost** または **ping <license server name>** を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

インストール完了 ページが開きます。

17.完了 をクリックします。

サードパーティ製ブラウザ拡張の有効化

デフォルトのブラウザが Internet Explorer の場合は、ブラウザのサードパーティ製拡張が有効になっていないというメッセージが表示される場合があります。SilkTest でブラウザ ページ内のオブジェクトを認識できるようにするためには、サードパーティ製ブラウザ拡張を有効にする必要があります。

1. Internet Explorer で、**ツール > インターネット オプション** を選択します。
2. **詳細設定** タブをクリックします。
3. **ブラウズ** で、**サードパーティ製のブラウザー拡張を有効にする** チェックボックスをオンにし、**OK** をクリックします。
4. ブラウザ ウィンドウを閉じてから再度開き、ブラウザを再起動します。

新しい設定を有効にするためにコンピュータを再起動する必要はありません。ブラウザ ウィンドウを閉じて再度開くのみです。

SilkTest Runtime または SilkTest Agent のインストール


作業を開始する前に、SilkTest の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

SilkTest Runtime を使用して、テストのセットを実行し、結果を表示します。

分散テストで使用するマシンに SilkTest Agent ソフトウェアをインストールします。

1. SilkTest の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

SilkTest CD を持っている場合は、CD を挿入します。セットアッププログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<CD ドライブ>:¥setup.exe** を入力して、SilkTest セットアッププログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラーメッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。


InstallAnywhere ウィザードが開きます。

2. 以前にインストールした SilkTest のバージョンがある場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。


以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。


3. **次へ** をクリックします。
使用許諾契約 が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
5. **次へ** をクリックします。
インストールセットの選択 ページが開きます。
6. ドロップダウンリストから **エージェントと実行環境のみ** を選択し、インストールするコンポーネントのチェックボックスをオンにします。

- Silk4J、SilkTest Workbench、SilkTest Recorder、Silk4NET、および SilkTest Classic のテクノロジの種類ほとんどでのテストで分散テストを実行するには、**Open Agent** チェックボックスをオンにします。
- 従来の 4Test 環境で分散テストを実行するには、**SilkTest Classic Agent** チェックボックスをオンにします。SilkTest Classic Agent ソフトウェアには SilkTest Unix Agent が含まれています。
- テストのセットを実行し、結果を表示するには、**SilkTest Classic Runtime** チェックボックスをオンにします。

 **注:** Agent のインストールには SilkTest の Windows および .NET 拡張キットが含まれています。これらは SilkTest Classic Agent のインストールの一部として含まれています。

7. **次へ** をクリックします。
インストールフォルダの選択 ページが開きます。
8. デフォルトのインストールディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します：
 - a) **選択** を選択します。
フォルダーの参照 ダイアログボックスが開きます。
 - b) SilkTest をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストールフォルダの選択** ページに戻ります。

 **注:** SilkTest と SilkTest Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

 **注:** SilkTest は、ローカルドライブにインストールする必要があります。無効なインストール先を指定した場合は、エラーメッセージが表示されます。

9. **次へ** をクリックします。
ファイアウォールの例外 ページが開きます。

10. Windows ファイアウォール例外を作成するかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。


a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **はい** : セットアップですべての SilkTest 実行可能ファイルに対して例外を作成します。この結果、実行可能ファイルを起動したときにそれをブロックするか許可するかのプロンプトは表示されません。
- **いいえ** : SilkTest 実行可能ファイルを起動したときにプロンプトが表示されます。

b) **次へ** をクリックします。

11. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います :

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

 **ヒント:** ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp であり、e:¥SilkTest にインストールしている場合に、E ドライブにはインストールに十分な領域があるが、D ドライブが制限の要因となります。

ステータスバーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**ライセンスモードの選択** ページが開きます。

12. 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **評価版** SilkTest の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。あとから、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **完全版** : ライセンスが必要な SilkTest の無制限版をインストールします。

13. ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを行います :

a) **ライセンス サーバーを設定します** をクリックして、**次へ** をクリックします。


このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンスサーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

b) **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス管理をするアプリケーションとして **SilkTest** を選択します。

c) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。


ローカルまたはリモートサーバーを使用する **ライセンス サーバー ホスト** テキストボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではないかぎり、デフォルト ポート番号 **5461** は変更しないでください。**適用** をクリックして、ライセンス サーバーの設定を生成します。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラ

りが、あとからソフトウェアパッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

 **注:** 場合により、**ライセンスサーバーホスト** テキストボックスに、ライセンスサーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。


スタンドアロン ライセンスを使用する SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**はい** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。


d) **閉じる** をクリックします。

 **注:** リモート SilkMeter ライセンス サーバーを使用して SilkTest を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行** を選択して **ping localhost** または **ping <license server name>** を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

インストール完了 ページが開きます。

14. インストールを完了するためにシステムを再起動するかどうかを指定し、**完了** をクリックします。

 **注目:** SilkTest Classic を正しく機能させるには、コンピュータを再起動する必要があります。

 **注:** SilkTest Agent のライセンスを購入し、SilkTest 自体を購入しない場合は、SilkTest のインストール後、Agent、ドキュメント、および SilkTest Bitmap Tool のみにアクセスできます。

Classic Agent for Unix のインストール

SilkTest Agent ソフトウェアのインストール後、SilkTest Classic Agent for Unix を使用するには追加ステップが必要です。

1. SilkTest Classic Agent ソフトウェアをインストールしたコンピュータで、SilkTest Unix Agent TAR ファイルがあるディレクトリを見つけます。

デフォルトでは、この場所は `c:\Program Files\Silk\SilkTest\unix_agent` です。

2. 使用している Unix マシンに適した TAR ファイルをコピーします。

SilkTest には以下のファイルがあります。

- `linux21_sp3.tar.gz` : Linux 2.1 用
- `linux30_sp3.tar.gz` : Linux 3.0 用
- `solaris_sp3.tar.gz` : Solaris 9 および 10 用

3. TAR ファイルを Unix マシン上に抽出します。tar xzf <filename>.tar.gz と入力します。
<filename> は、使用している Unix のバージョンに適したファイル名です。
4. bin ディレクトリに移動し、シェルまたは C シェル スクリプトを実行します。
たとえば、以下のように入力します。

```
cd bin
csh <filename>
```


5. Agent を起動します。

Silk4J のインストール

Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。Silk4J は、標準インストールまたは完全インストールを選択すると、自動的にインストールされます。基本インストールまたはカスタム インストールを選択した場合は、あとで Silk4J をインストールできます。Silk4J をインストールすると、SilkTest Recorder および Open Agent もインストールされます。SilkTest Recorder を使用すると、テストを記録できます。テストを手動でコーディングする必要はありません。Silk4J および SilkTest Recorder を実行するには、Open Agent が必要です。

1. SilkTest の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

SilkTest CD を持っている場合は、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<CD ドライブ>:¥setup.exe** を入力して、SilkTest セットアップ プログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の TEMP 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、TEMP 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallAnywhere ウィザードが開きます。

2. 以前にインストールした SilkTest のバージョンがある場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。
以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。
使用許諾契約 が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
5. **次へ** をクリックします。
インストール セットの選択 ページが開きます。
6. ドロップダウン リストから、**カスタム** を選択して **Silk4J** チェック ボックスをオンにします。
Silk4J、SilkTest Recorder、および Open Agent がインストールされます。
7. **次へ** をクリックします。
インストール フォルダの選択 ページが開きます。
8. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します：
 - a) **選択** を選択します。

フォルダーの参照 ダイアログ ボックスが開きます。

b) SilkTest をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

場所が **インストールする場所を指定してください** テキスト ボックスに表示されます。

9. **次へ** をクリックします。

Silk4J へようこそ ページが開きます。

10. Silk4J をインストールするときに新しい Eclipse 環境をインストールするかどうかを指定します。

a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **Eclipse (92MB) をダウンロードして Silk4J をインストール** : Silk4J および Eclipse 3.5 環境をインストールするには、このオプションをクリックします。
- **既存の Eclipse 環境を使用して Silk4J をインストール** : Silk4J で既存の Eclipse 環境を使用するには、このオプションをクリックします。 **参照** をクリックして、使用する Eclipse 環境に移動します。
- **Silk4J を手動でインストール** : Silk4J を Eclipse 環境に手動でインストールするには、このオプションをクリックします。 dropins という名前のフォルダが SilkTest インストール ディレクトリに作成されます。このフォルダを有効な Eclipse ディレクトリにコピーして Silk4J を使用します。

b) **次へ** をクリックします。

インストールが完了したら、**スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ Silk4J** を選択して Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンラインヘルプを参照してください。

11. Windows ファイアウォール例外を作成するかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。


a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **はい** : セットアップですべての SilkTest 実行可能ファイルに対して例外を作成します。この結果、実行可能ファイルを起動したときにそれをブロックするか許可するかのプロンプトは表示されません。
- **いいえ** : SilkTest 実行可能ファイルを起動したときにプロンプトが表示されます。

b) **次へ** をクリックします。

12. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います :

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

 **ヒント:** ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp であり、e:¥SilkTest にインストールしている場合に、E ドライブにはインストールに十分な領域があるが、D ドライブが制限の要因となります。

ステータスバーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**ライセンスモードの選択** ページが開きます。

13. 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **評価版** SilkTest の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。あとから、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **完全版**：ライセンスが必要な SilkTest の無制限版をインストールします。

14. ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを行います：


a) **ライセンス サーバーを設定します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンスサーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

b) **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス管理をするアプリケーションとして **SilkTest** を選択します。


c) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

ローカルまたはリモート サーバーを使用する **ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではないかぎり、デフォルト ポート番号 **5461** は変更しないでください。**適用** をクリックして、ライセンス サーバーの設定を生成します。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

 **注:** 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**はい** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

d) **閉じる** をクリックします。

 **注:** リモート SilkMeter ライセンス サーバーを使用して SilkTest を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行** を選択して **ping localhost** または **ping <license server name>** を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

インストール完了 ページが開きます。

15. **完了** をクリックします。

16. Silk4J のインストール実行時に Eclipse が実行されていた場合は、Eclipse を再起動します。

インストールが完了したら、**スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ Silk4J** を選択して Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンラインヘルプを参照してください。

Silk4J Eclipse プラグインの手動インストール

Silk4J Eclipse プラグインを使用すると、Eclipse 環境で直接 Java ベースのテスト スクリプトを作成できます。SilkTest インストール ウィザードを使用して SilkTest をインストールするときに、Silk4J Eclipse プラグインをインストールできます。

この手順は、以下の場合に使用します。

- Silk4J プラグインのインストール後に Eclipse のバージョンをアップグレードする場合。
- インストール中に **Silk4J を手動でインストール** オプションを選択した場合。
- SilkTest をインストールしたときに Silk4J Eclipse プラグインをインストールしておらず、手動でインストールする場合。

1. 次のいずれか 1 つのステップを行います：

- インストール中に **Silk4J を手動でインストール** オプションを選択した場合、SilkTest インストール ディレクトリで dropins フォルダを検索します。


デフォルトでは、この場所は C:¥Program Files¥Silk¥SilkTest¥dropins です。

- SilkTest インストール ディレクトリに dropins フォルダを作成し、以下のテキストを含む Silk4J.link ファイルを作成します。

```
path=<SilkTest
Install Directory>/ng/Silk4J
```

たとえば、以下を追加します。

```
path=C:/Program Files/Silk/SilkTest/ng/Silk4J
```


 **注：**パスにはスラッシュが必要です。

2. Silk4J.link ファイルをコピーして Eclipse dropins フォルダに貼り付けます。

たとえば、Eclipse 環境が C:¥Eclipse にインストールされている場合は、Silk4J.link ファイルを C:¥Eclipse¥dropins にコピーします。

3. Silk4J のインストール実行時に Eclipse が実行されていた場合は、Eclipse を再起動します。

インストールが完了したら、**スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ Silk4J** を選択して Eclipse 環境にアクセスします。プラグインの使用手順については、プラグインのオンラインヘルプを参照してください。


 **ヒント：** Silk4J の起動で問題が発生した場合は、パラメータ -clean を使用して Eclipse を起動してみます。

Silk4NET のインストール

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテスト スクリプトを作成できます。Silk4NET は、標準インストールまたは完全インストールを選択すると、自動的にインストールされます。基本インストールまたはカスタムインストールを選択した場合は、あとで Silk4NET をインストールできます。Silk4NET をインストールすると、SilkTest Recorder および Open Agent もインストールされます。SilkTest Recorder を使用すると、テストを記録できます。テストを手動でコーディングする必要はありません。Silk4NET および SilkTest Recorder を実行するには、Open Agent が必要です。

1. SilkTest の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

SilkTest CD を持っている場合は、CD を挿入します。セットアップ プログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<CD ドライブ>:¥setup.exe** を入力して、SilkTest セットアップ プログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラー メッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。

InstallAnywhere ウィザードが開きます。

2. 以前にインストールした SilkTest のバージョンがある場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。
以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。
使用許諾契約 が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
5. **次へ** をクリックします。
インストール セットの選択 ページが開きます。
6. ドロップダウン リストから、**カスタム** を選択して Silk4NET チェック ボックスをオンにします。
Silk4NET、SilkTest Recorder、および Open Agent がインストールされます。
7. 既存の Visual Studio 環境で使用するよう Silk4NET をインストールするかどうかを指定します。
Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテスト スクリプトを作成できます。
 - a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。
 - **既存の Visual Studio 2010 環境を使用して Silk4NET をインストール** : 既存の Visual Studio 2010 環境を使用するには、このオプションをクリックします。
 - **Silk4NET を手動でインストール** : Silk4NET のインストールをあとで完了するには、このオプションをクリックします。Visual Studio 2010 がマシンにインストールされていない場合は、このオプションを選択する必要があります。方法については、このマニュアルの「*Silk4NET Visual Studio* プラグインの手動インストール」を参照してください。
 - b) **次へ** をクリックします。

Visual Studio を起動すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。

8. ショートカットアイコンを追加するには、以下のチェックボックスのいずれか、または両方をオンにします。

- **デスクトップに追加** : デスクトップにアイコンを追加します。
- **クイック起動バーに追加** : クイック起動ツールバーにアイコンを追加します。

9. **次へ** をクリックします。

インストール フォルダの選択 ページが開きます。

10. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します :

a) **選択** を選択します。

フォルダーの参照 ダイアログ ボックスが開きます。

b) SilkTest をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

場所が **インストールする場所を指定してください** テキスト ボックスに表示されます。

11. **次へ** をクリックします。

12. Windows ファイアウォール例外を作成するかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。


a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **はい** : セットアップですべての SilkTest 実行可能ファイルに対して例外を作成します。この結果、実行可能ファイルを起動したときにそれをブロックするか許可するかのプロンプトは表示されません。
- **いいえ** : SilkTest 実行可能ファイルを起動したときにプロンプトが表示されます。

b) **次へ** をクリックします。

13. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います :

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

 **ヒント:** ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp であり、e:¥SilkTest にインストールしている場合に、E ドライブにはインストールに十分な領域があるが、D ドライブが制限の要因となります。

ステータスバーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**ライセンスモードの選択** ページが開きます。

14. 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **評価版** : SilkTest の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。あとから、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **完全版** : ライセンスが必要な SilkTest の無制限版をインストールします。

15. ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを行います：

a) **ライセンス サーバーを設定します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンスサーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

b) **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス管理をするアプリケーションとして **SilkTest** を選択します。

c) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

ローカルまたはリモートサーバーを使用する

ライセンス サーバー ホスト テキスト ボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではないかぎり、デフォルト ポート番号 **5461** は変更しないでください。**適用** をクリックして、ライセンス サーバーの設定を生成します。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。



注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

スタンドアロン ライセンスを使用する

SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**はい** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

d) **閉じる** をクリックします。



注: リモート SilkMeter ライセンス サーバーを使用して SilkTest を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート ▶ ファイル名を指定して実行** を選択して **ping localhost** または **ping <license server name>** を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

インストール完了 ページが開きます。

16. **完了** をクリックします。

17. Silk4NET のインストール実行時に Visual Studio が実行されていた場合は、Visual Studio を再起動します。

インストールが完了すると、Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。

Silk4NET Visual Studio プラグインの手動インストール

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 Visual Basic または C# のテストスクリプトを作成できます。SilkTest インストール ウィザードを使用して SilkTest をインストールするときに、Silk4NET Visual Studio プラグインをインストールできます。

この手順は、以下の場合に使用します。

- Silk4NET プラグインのインストール後に Visual Studio のバージョンをアップグレードする場合。
- インストール中に **Silk4NET を手動でインストール** オプションを選択した場合。

1. SilkTest¥*installation directory*¥ng¥Silk4NET で ItemTemplates および ProjectTemplates フォルダを見つけます。


デフォルトでは、この場所は C:¥Program Files¥Silk¥SilkTest¥ng¥Silk4NET です。

2. ItemTemplates および ProjectTemplates フォルダをコピーして *Visual Studio 2010 installation directory*¥Common7¥IDE¥ に貼り付けます。

たとえば、Visual Studio 環境が C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio¥ にインストールされている場合は、フォルダを C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio 9.0¥Common7¥IDE にコピーします。

3. Visual Studio で、**ツール ▶ オプション ▶ 環境 ▶ アドイン/マクロセキュリティ** を選択します。

4. **追加** をクリックし、パスを SilkTest¥*installation directory*¥ng¥Silk4NET¥Addins に追加します。Silk4NET のメニュー オプションが表示され、**インストールされたテンプレート** リストから Silk4NET プロジェクトを選択できます。

 **注:** Silk4NET のメニュー オプションおよびテンプレート リストが表示されない場合は、パラメータ `/setup` を使用して `devenv.com` を起動します。たとえば、以下のように入力します。

```
"<VS10InstallDir>¥Common7¥IDE¥devenv.com /setup"
```

5. バージョンをアップグレードする場合は、以下のコマンドを入力してオンライン ヘルプを手動で削除する必要があります。

```
HelpLibManager.exe /product VS /version 100 /locale ja-jp /uninstall /silent /vendor "Micro Focus" /mediaBookList "Silk4NET" /productName "SilkTest 2010"
```

デフォルトで、ヘルプ ライブラリ マネージャの実行可能ファイルは C:¥Program Files¥Microsoft Help Viewer¥v1.0 にあります。

6. Silk4NET のオンライン ヘルプをインストールするには、以下のように入力します。

```
HelpLibManager.exe /product VS /version 100 /locale ja-jp /silent /sourceMedia "<SilkTest installation directory>¥ng¥Silk4NET¥Documentation¥ja¥helpcontentsetup.msha"
```

デフォルトで、ヘルプ ライブラリ マネージャの実行可能ファイルは C:¥Program Files¥Microsoft Help Viewer¥v1.0 にあります。


SilkTest Classic のインストール

作業を開始する前に、SilkTest の実行可能ファイルをダウンロードするか、SilkTest の CD を CD ドライブに挿入します。

SilkTest Classic は、完全インストールを選択すると、自動的にインストールされます。カスタムインストールを選択した場合は、従来の 4Test インターフェイスおよびツールのみを使用するために SilkTest Classic をインストールできます。SilkTest Classic をインストールすると、SilkTest Recorder、SilkTest Classic Agent、および Open Agent もインストールされます。SilkTest Recorder を使用すると、テストを記録できます。テストを手動でコーディングする必要はありません。SilkTest Classic では、Classic Agent または Open Agent を使用して、サポートされるテクノロジー ドメインに接続します。Open Agent は SilkTest Recorder 用に必要です。

1. SilkTest の実行可能ファイルを探し、ダブルクリックします。

SilkTest CD を持っている場合は、CD を挿入します。セットアッププログラムが自動的に開始されない場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行...** を選択し、**<CD ドライブ>:¥setup.exe** を入力して、SilkTest セットアッププログラムを手動で開始します。

 **注:** Windows の *TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指していない場合は、エラーメッセージが表示されます。SilkTest を正常にインストールするには、*TEMP* 環境変数が有効なディレクトリを指している必要があります。


InstallAnywhere ウィザードが開きます。


2. 以前にインストールした SilkTest のバージョンがある場合は、**アンインストール** をクリックして **次へ** をクリックし、インストールされている機能をすべて削除します。
以前のバージョンをアンインストールしてから、新しいバージョンをインストールする必要があります。
3. **次へ** をクリックします。
使用許諾契約 が開きます。
4. 使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。これらの条項に同意する場合には、**使用許諾契約の条項に同意する** をクリックします。
5. **次へ** をクリックします。
インストールセットの選択 ページが開きます。
6. ドロップダウン リストから、**カスタム** を選択して **SilkTest Classic IDE** のチェック ボックスをオンにします。
SilkTest Classic をインストールすると、SilkTest Recorder、SilkTest Classic Agent、および Open Agent もインストールされます。
7. ショートカット アイコンを追加するには、以下のチェック ボックスのいずれか、または両方をオンにします。
 - **デスクトップに追加** : デスクトップにアイコンを追加します。
 - **クイック起動バーに追加** : クイック起動ツールバーにアイコンを追加します。
8. **次へ** をクリックします。
インストール フォルダの選択 ページが開きます。
9. デフォルトのインストール ディレクトリを変更するには、以下のステップを実行します :

a) **選択** を選択します。

フォルダーの参照 ダイアログ ボックスが開きます。

b) SilkTest をインストールするフォルダを指定し、**OK** をクリックして **インストール フォルダの選択** ページに戻ります。

 **注:** SilkTest と SilkTest Runtime を同じマシンにインストールすることはできません。

 **注:** SilkTest は、ローカル ドライブにインストールする必要があります。無効なインストール先を指定した場合は、エラー メッセージが表示されます。

場所が **インストールする場所を指定してください** テキスト ボックスに表示されます。

10. 次へ をクリックします。

11. Classic Agent でブラウザ アプリケーションをテストするときに使用するデフォルトの言語を選択します。

あとで別の言語に切り替えるには、ヘルプを参照してください。


選択した言語のブラウザ インクルード (.inc) ファイルは、<SilkTest install>¥Extend ディレクトリにインストールされます。すべてのブラウザ インクルード ファイルは、<SilkTest Install>¥Locale ディレクトリにインストールされます。

12. Web アプリケーションのテスト用のデフォルトのブラウザを確認し、**次へ** をクリックします。

このダイアログのオプションは、マシンのブラウザ設定に基づいてセットアップ プログラムによって事前選択されています。たとえば、Internet Explorer を使用している場合は、マシンにインストールされている IE のバージョンが表示されます。

SilkTest Classic に対して別のデフォルトのブラウザを指定するには、適切なブラウザを選択します。Web アプリケーションをテストしない場合は、**なし** を選択し、**次へ** をクリックします。

選択内容にかかわらず、この設定はあとで SilkTest Classic で変更できます。デフォルトのブラウザまたはブラウザ拡張をインストール後に変更する方法については、SilkTest Classic のヘルプを参照してください。

 **注:** デフォルトのブラウザが Internet Explorer の場合は、ブラウザのサードパーティ製拡張が有効になっていないというメッセージが表示される場合があります。SilkTest Classic でブラウザ ページ内のオブジェクトを認識できるようにするには、このオプションを有効にする必要があります。このオプションを有効にしてからインストールを続行するか、インストールが完了したあとでこのオプションを有効にすることができます。

13. Windows ファイアウォール例外を作成するかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。


a) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **はい** : セットアップですべての SilkTest 実行可能ファイルに対して例外を作成します。この結果、実行可能ファイルを起動したときにそれをブロックするか許可するかのプロンプトは表示されません。
- **いいえ** : SilkTest 実行可能ファイルを起動したときにプロンプトが表示されます。

b) **次へ** をクリックします。

14. 提示された情報を確認し、以下のステップのいずれかを行います：

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

 **ヒント:** ファイルのコピー中に十分な空き領域がないというメッセージが表示された場合は、TEMP 領域を多くの領域があるドライブに再定義します。TEMP 領域はインストーラによりファイルを解凍するために使用されます。たとえば、TEMP 領域が d:¥temp であり、e:¥SilkTest にインストールしている場合に、E ドライブにはインストールに十分な領域があるが、D ドライブが制限の要因となります。

ステータスバーにより、インストール処理の状況がわかります。完了すると、**ライセンスモードの選択** ページが開きます。

15. 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- **評価版** SilkTest の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 30 日間使用できます。あとから、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **完全版**：ライセンスが必要な SilkTest の無制限版をインストールします。

16. ライセンス ファイルをインストールするには、次のステップを行います：


a) **ライセンス サーバーを設定します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

このライセンス ユーティリティは、ローカル システム内に、SilkMeter ライセンス サーバーの設定ファイルがあるかどうかを確認します。ファイルが見つければ、ライセンスサーバーの設定とタイプが表示され、ライセンス管理に利用されます。設定データが見つからない場合は、**SilkMeter ライセンス サーバーの選択** ページがデフォルトの設定と共に表示されます。

b) **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス管理をするアプリケーションとして **SilkTest** を選択します。


c) 以下のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

ローカルまたはリモートサーバーを使用する **ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、SilkMeter がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのではないかぎり、デフォルト ポート番号 **5461** は変更しないでください。**適用** をクリックして、ライセンス サーバーの設定を生成します。**接続のテスト** をクリックして、指定したホスト、ポート上で SilkMeter サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。ライセンス サーバーへの接続テストは、インストール時には失敗することがあります。これは、必須システム ライブラリが、あとからソフトウェア パッケージと共にインストールされるために、その時点ではまだ利用できない場合があるためです。

 **注:** 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** テキスト ボックスに、ライセンス サーバーの名前を **licenseserver** など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。there is no license server running on the hostname you specified (指定されたホスト名上にはライセンスサーバーが実行されていません) というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、**licenseserver.mycompany.com** など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。


スタンドアロン ライセンスを使用する SilkMeter をスタンドアロンで実行します。SilkMeter のライセンス ファイルをインポートするようプロンプトが表示されます。**はい** をクリックし、ライセンス ファイルの場所を指定します。

d) **閉じる** をクリックします。

 **注:** リモート SilkMeter ライセンス サーバーを使用して SilkTest を実行する場合、ネットワーク接続が機能している必要があります。ネットワークが機能していることを確認する必要がある場合は、**スタート > ファイル名を指定して実行** を選択して **ping localhost** または **ping <license server name>** を入力するか、コマンド プロンプトを開いてこれらのコマンドのいずれかを入力します。

インストール完了 ページが開きます。


17. インストールを完了するためにシステムを再起動するかどうかを指定し、**完了** をクリックします。

 **注目:** SilkTest Classic を正しく機能させるには、コンピュータを再起動する必要があります。


サンプル アプリケーションのインストール

SilkTest は、チュートリアルで利用したり、サンプルのテストを作成するために、いくつかのサンプル アプリケーションを提供しています。ダウンロードしたサンプル アプリケーションには、Silk4J のサンプル プロジェクトとスクリプトも含まれています。


1. http://techpubs.borland.com/silk_gauntlet/SilkTest/ に移動します。
2. Java AWT、Java Swing、Java SWT、Microsoft .NET（Windows Forms と WPF アプリケーションを含む）、Windows ベースのクライアント/サーバー、および xBrowser アプリケーション用の Silk4J プロジェクトとサンプル アプリケーションをダウンロードするには、**SampleApplications** をクリックします。
SampleApplications.zip ファイルを開くか保存するかを確認するダイアログが開きます。
3. サンプルの zip ファイルをダウンロードしたら、zip ファイルを展開してサンプル アプリケーションをインストールします。

 **注:** インストール可能な Adobe Flex のサンプル アプリケーションは提供されなくなりました。ただし、<http://demo.borland.com/flex/SilkTest2010R2/index.html> で Flex のサンプル アプリケーションにアクセスできます。

デフォルトの SQL Server Express 2008 データベースのカスタマイズ

 **重要:** このタスクは、データベース管理者またはデータベースの管理に関する一般的な知識を持つ方が行うことをお勧めします。

SilkTest Workbench をインストールする前に、デフォルトの SQL Server Express 2008 データベースの特定のデータベース設定（セキュリティ モードやパスワードなど）をカスタマイズできます。データベース設定をカスタマイズしたあとに、インストール ウィザードを実行してデータベース インストール プロセスを完了できます。

 **注:** SQL Server Express 2008 には、Windows インストーラ バージョン 4.5 および Microsoft .Net Framework 3.5 SP1 が必要です。

1. 必要な SilkTest Workbench データベース インスタンスをインストールし、目的のデータベース設定を指定します。コマンド プロンプトを開き、SQL Server Express 実行可能ファイルのディレクトリ の場所を指定します。

32 ビットの実行可能ファイル名は SQLEXP_x86_ENU.exe です。64 ビットの実行可能ファイル名は SQLEXP_x64_ENU.exe です。両方の EXE ファイルに Service Pack 1 が含まれています。


2. コンピュータの仕様に応じて、以下のコマンドのいずれかを入力します。

32 ビット :

```
SQLEXP_x86_ENU.exe /Q /ACTION=Install /FEATURES=SQLEngine
/INSTANCENAME=SilkTestW
/SECURITYMODE=SQL /SAPWD=silktestw /BROWSERSVCSTARTUPTYPE=Automatic
/SQLSVCACCOUNT="NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE"
/SQLSYSADMINACCOUNTS="BUILTIN\ADMINISTRATORS"
```

64 ビット :

```
SQLEXP_x64_ENU.exe /Q /ACTION=Install /FEATURES=SQLEngine
/INSTANCENAME=SilkTestW
/SECURITYMODE=SQL /SAPWD=silktestw /BROWSERSVCSTARTUPTYPE=Automatic
/SQLSVCACCOUNT="NT AUTHORITY\NETWORK SERVICE"
/SQLSYSADMINACCOUNTS="BUILTIN\ADMINISTRATORS"
```

 **注:** これらは、SilkTest Workbench データベース インスタンスをインストールするためにインストール ウィザードによって使用されるデフォルト設定です。これらの設定は変更できますが、/INSTANCENAME は例外です。この設定は SilkTestW である必要があります。インストールの進捗状況を確認するには、/Q ではなく /QS コマンドを使用します。インストールの進捗状況を完全に非表示にするには、/Q /HIDECONSOLE を使用します。

3. インストール ウィザードを実行し、SQL Server Express データベースをインストールするオプションを選択します。

インストール ウィザードにより、以前に作成されたデータベース インスタンスが検出され、必要な SilkTest Workbench データベース テーブルが作成されます。

SilkTest のアンインストール

新しいバージョンの SilkTest をインストールするときに、既存のバージョンの SilkTest のアンインストールを求めるプロンプトがウィザードで表示されます。また、プログラム メニューから SilkTest をいつでもアンインストールできます。

1. **スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ SilkTest のアンインストール** を選択します。

InstallAnywhere ウィザードにより、[SilkTest 2010 R2 をアンインストール] ページが開きます。

2. インストールディレクトリからすべてのファイルを削除するには、**すべてのファイルを削除する** チェックボックスをオンにします。

このチェックボックスをオンにすると、以下の項目またはフォルダが削除されます。

- インストールしたサンプル アプリケーション
- Access データベースおよびサンプル
- [AppDATA]/Silk/SilkTest の内容

たとえば、Windows 7 では、このディレクトリは

C:¥Users¥[username]¥AppData¥Roaming¥Silk¥SilkTest にあります。

- [commonAppData]/Silk/SilkTest の内容

たとえば、Windows 7 では、このディレクトリは C:¥ProgramData¥SilkTest にあります。

- [commonAppData]/Silk/SilkTest Workbench の内容

たとえば、Windows 7 では、このディレクトリは C:¥ProgramData¥SilkTest Workbench にあります。

3. **アンインストール** をクリックします。

削除されなかったファイルがある場合は、それらのファイルのリストが表示されます。

4. **完了** をクリックします。

SilkTest のサイレント モード インストール

ユーザー主導の一般的なインストールでは、インストールプロセスの情報はダイアログボックスに応答するユーザーから取得されます。ただし、サイレントモードインストールでは、インストールプロセスの情報はプロパティファイルから取得されます。サイレントインストールは特に、LAN やインターネット上で、リモートインストールツールを使用してソフトウェアを配布する場合に便利です。以下の種類のサイレントインストールを実行できます。

- 完全 : SilkTest Workbench、SilkTest Agent、SilkTest Recorder、Silk4J、Silk4NET、および SilkTest Classic をインストールします。
- 標準 : SilkTest Workbench、SilkTest Open Agent、SilkTest Recorder、Silk4J、および Silk4NET をインストールします。
- 基本 : SilkTest Workbench および SilkTest Open Agent をインストールします。
- Agent/Runtime : SilkTest Runtime および SilkTest Agent をインストールします。

サイレントインストールのプロパティファイルの作成

インストールパッケージをサイレントモードで実行する前に、インストールの設定を含むプロパティファイルを作成する必要があります。

1. メモ帳などのテキスト エディタを開きます。
2. 以下の例をテキスト エディタに貼り付け、ファイルに名前を付け、.properties 拡張子を使用してファイルを保存します。


たとえば、ファイルを SilentInstall.properties とすることができます。

```
# Silent Installation Execution Instructions:
#####
# Start the Install.exe (not Setup.exe) with the following arguments:
# -i silent -f [path to properties file][properties file] (You may use the direct or the
relative path to the properties file. )
#
# example: install.exe -i silent -f SilentInstall.properties
#
# SilkTest installation path - use "%¥%" to separate directories
# (default: [System_Programs_Folder]¥¥Silk¥¥SilkTest)
#####
# USER_INSTALL_DIR=C:¥¥Program Files¥¥Silk¥¥SilkTest
#
# Select an install set:
# (default: 1)
#####
# 0 - Basic (Workbench)
# 1 - Standard (Workbench, Silk4J, Silk4NET)
# 2 - Complete
# 3 - Agent/Runtime Only
# Custom mode is not supported in Silent mode
# SELECTED_INSTALL_SET=1
#
# Microsoft SQL Server 2008 Express Edition installation option:
# (default: No)
#####
# USER_INPUT_INSTALL_SQL=Yes
#
# Shortcut locations: enter the location(s) for icons (allowed: Desktop, QuickLaunch)
# (default: no shortcuts)
#####
# SHORTCUT_LOCATIONS=Desktop,QuickLaunch
#
# Path to the existing Eclipse directory (containing eclipse.exe) into which Silk4J will be
integrated
# (default: USER_INSTALL_DIR)
#####
# ECLIPSE_CHOSEN_DIR=C:¥¥Eclipse
#
# Silk4NET installation option: if set to 1, Silk4NET will be integrated into an existing
VS2010
# (default: 0)
#####
# USER_INPUT_SILK4NET_INTEGRATE=1
```

```
#
# Classic Agent browser options:
#####
# Default language: English
#   (allowed one at a time: English, Simplified Chinese, French, German, Japanese)
# USER_INPUT_BROWSER_LANGUAGE=English
#
# Default browser:
# Default Value: System Default Browser if supported by Classic Agent, otherwise None
#   (allowed one at a time: None, Firefox, Internet Explorer)
# USER_INPUT_DEFAULT_BROWSER=None
#
# Internet Explorer version number:
# Set if selected default browser is Internet Explorer
#   (allowed one at a time: 6, 7, 8)
# IE_VERSION=7
#
# Mozilla Firefox version number:
# Set if selected default browser is Firefox
#   (allowed one at a time: 1_5, 2_0)
# FIREFOX_DOMEX_VERSION=2_0
#
# Firewall exceptions:
# (default: no exceptions)
#####
# USER_INPUT_FIREWALL=Yes
#
# Licensing Mode (no default value)
#####
# Use to install an evaluation license
# USER_VERSION_EVAL=1
#
# Use to install a full license
# USER_VERSION_FULL=1
#
# Settings that specify the license server and port
# (no default values)
#####
# LICENSE_SERVER=localhost
# Port of license server
# LICENSE_PORT=5461
```

サイレント インストーラの設定


サイレント インストーラのプロパティを設定する前に、インストールの設定を含んだプロパティ ファイルを作成する必要があります。

 **注:** プロパティ値を設定するには、プロパティ値の文字列からシャープ (#) 記号を削除してください。

1. テキスト エディタで、サイレント インストール用に作成したプロパティ ファイルを開きます。
2. SELECTED_INSTALL_SET プロパティで、完了するインストールの種類に合った値を設定します。

以下の選択肢があります。

```
# 0 - Basic (Workbench)
# 1 - Standard (Workbench, Silk4J, Silk4NET)
# 2 - Complete
# 3 - Agent/Runtime Only
```

 **注:** サイレント インストールではカスタム モードはサポートされません。

たとえば、SilkTest の完全バージョンをインストールするには、以下のように入力します。

```
SELECTED_INSTALL_SET=2
```

3. Microsoft SQL Server 2008 Express Edition をインストールするには、USER_INPUT_INSTALL プロパティで Yes を指定します。
SilkTest Workbench にはデータベースが必要であり、SQL Server、Access、または Oracle を使用して実行されます。

4. ショートカット アイコンを追加するには、SHORTCUT_LOCATIONS プロパティで以下のオプションのいずれか、または両方を指定します。

- **Desktop** : デスクトップにアイコンを追加します。
- **QuickLaunch** : クイック起動ツールバーにアイコンを追加します。


たとえば、デスクトップ アイコンとクイック起動アイコンの両方をインストールするには、以下のように入力します。

```
SHORTCUT_LOCATIONS=Desktop,QuickLaunch
```

5. 既存の Eclipse 環境を Silk4J Java Testing Framework (JTF) と統合するには、ECLIPSE_CHOSEN_DIR プロパティで Eclipse ディレクトリの場所を指定します。
たとえば、以下のように指定できます。

```
ECLIPSE_CHOSEN_DIR=C:¥¥Eclipse
```

C:¥¥Eclipse は Eclipse がインストールされているディレクトリです。

 **注:** ディレクトリ レベルは二重の ¥¥ で指定します。

6. 既存の Visual Studio 環境で使用するよう Silk4NET をインストールするには、USER_INPUT_SILK4NET_INTEGRATE プロパティで以下のオプションのいずれかを指定します。

- 0 : 使用のために Silk4NET を設定しません。
- 1 : 使用のために Silk4NET を設定します。

Silk4NET Visual Studio プラグインを使用すると、Visual Studio で直接 VB.NET または C# のテスト スクリプトを作成できます。

たとえば、以下のように指定できます。

```
USER_INPUT_SILK4NET_INTEGRATE=1
```

7. Classic Agent ブラウザ アプリケーションの言語を指定するには、USER_INPUT_BROWSER_LANGUAGE プロパティで以下の言語のいずれかを指定します。

デフォルトでは、English が指定されます。

- **English**
- **Simplified Chinese**
- **French**
- **German**
- **Japanese**

たとえば、以下のように指定できます。

```
USER_INPUT_BROWSER_LANGUAGE=English
```

8. Classic Agent のデフォルトのブラウザを指定するには、USER_INPUT_DEFAULT_BROWSER プロパティで以下の選択肢からいずれかを指定します。

デフォルトでは、インストーラによってデフォルトのシステム ブラウザが使用されます (SilkTest でサポートされている場合)。

- **None** : Classic Agent を使用してテストしない場合または Web アプリケーションをテストしない場合は、**None** を選択します。
- **Firefox**
- **Internet Explorer**

たとえば、以下のように指定できます。

```
USER_INPUT_DEFAULT_BROWSER=Firefox
```

9. Classic Agent の Internet Explorer のバージョンを指定するには、IE_VERSION プロパティで **6**、**7**、または **8** を指定します。

たとえば、以下のように指定できます。

```
IE_VERSION=7
```

10. Classic Agent の FireFox のバージョンを指定するには、FIREFOX_DOMEX_VERSION プロパティで **1_5** または **2_0** を指定します。

たとえば、以下のように指定できます。

```
FIREFOX_DOMEX_VERSION=2_0
```

11. インストールに、すべての SilkTest 実行可能ファイルに対する Windows ファイアウォール例外を含めるかどうかを指定します。

 **注:** このステップは、Windows XP、Windows Vista、Windows 7、および Windows Server 2008 の場合にのみ使用できます。

デフォルトでは、ファイアウォール例外は設定されません。

たとえば、Windows ファイアウォール例外を作成するには、以下のように指定します。

```
USER_INPUT_FIREWALL=Yes
```

12 インストールに評価用ライセンスが必要かフル ライセンスが必要かを指定します。

- 30 日間試用できる評価用ライセンスを使用するには、以下のように入力します。

```
USER_VERSION_EVAL=1
```

- フル ライセンスを使用するには、以下のように入力します。

```
USER_VERSION_FULL=1
```

13 ライセンス サーバー名を指定するには、LICENSE_SERVER プロパティでサーバー名を指定します。

この値はデフォルトでは設定されません。ローカルマシンを使用するには（ほとんどの場合）、**localhost** を入力します。

14 ライセンス サーバー ポートを指定するには、LICENSE_PORT セクションを見つけます。

この値はデフォルトでは設定されません。事前に定義されているポートを使用するには、**5461** を入力します。

15 ファイルを保存します。


サイレント インストール コマンドを実行して、インストールを起動します。

サイレント モードでのインストール

インストール パッケージをサイレント モードで実行する前に、以下を実行する必要があります。

- インストールの設定を含むプロパティ ファイルを作成します。
- Windows インストーラ バージョン 4.5 をホスト マシンにインストールします。

インストール ウィザードを使用する場合、Windows インストーラ バージョン 4.5 は自動的にインストールされます。サイレント モードを使用する場合、このコンポーネントがまだマシン上になければ手動でインストールする必要があります。

 **注意:** 以前のバージョンの SilkTest をアンインストールしてから続行してください。以前のバージョンの SilkTest (SilkTest 2009 など) がコンピュータ上にある場合、SilkTest は通知なしで既存のファイルを上書きします。複数のバージョンの SilkTest を同じマシンにインストールしないでください。


ユーザーの操作なしで SilkTest をインストールする場合は、サイレント モードでインストールします。

1. インストール パッケージをハード ドライブ上の空のディレクトリに抽出しておきます。

インストール CD を使用する場合は、CD の内容をハード ドライブ上の空のディレクトリにコピーします。

2. サイレントインストールを実行するには、DOS シェルやバッチファイルから以下のコマンドを入力します。

```
install.exe -i silent -f [path to properties file]¥[properties file]
```

 **重要:** サイレントモードを開始するには、[device]:¥setup.exe ではなく [device]:¥Disk1¥InstData¥VM¥install.exe 実行可能ファイルを使用します。


 **注:** プロパティ ファイルは拡張子が .properties のテキスト ファイルです。任意のファイル名を選択できます。

たとえば、サイレント インストールのプロパティ ファイルが install.exe と同じディレクトリにある場合は、以下のように指定します。

```
install.exe -i silent -f SilentInstall.properties
```

install.exe がサイレント インストールのプロパティ ファイルと同じディレクトリにない場合は、プロパティ ファイルの場所の絶対パスを指定します。例：


```
install.exe -i silent -f C:¥temp¥SilentInstall.properties
```

 **注:** インストールパッケージが再び GUI 上で実行されるようにするには、**install.exe** ファイルではなく **setup.exe** ファイルを起動します。

SilkMeter はライセンスが必要なツールです。サイレント インストーラを実行するときに SilkMeter サーバーの検出は「スキップ」されます。ライセンス サーバーをまだ構成していない場合、サイレント インストーラで SilkTest をインストールしたあとにライセンス サーバーを構成することが必要となる場合があります。

サイレント インストーラの成功の確認

サイレント インストーラを実行する場合、メッセージや SilkTest のダイアログボックスは表示されません。インストールが成功したかどうかを知るのは困難です。ただし、インストールのステータスが含まれている SilkTest_2010_R2_InstallLog.log ファイルを確認できます。デフォルトでは、SilkTest_2010_R2_InstallLog.log ファイルは SilkTest インストール ディレクトリ内に生成されます。ログ ファイルを確認してから、他のユーザーがサイレント インストーラを使用できるようにすることをお勧めします。

 **注意:** 以前のバージョンの SilkTest (SilkTest 2009 など) がコンピュータで検出された場合、SilkTest はインストールを続行し、ログ ファイルにエントリは作成されません。複数のバージョンの SilkTest を同じマシンにインストールしないでください。

1. SilkTest_2010_R2_InstallLog.log ファイルを見つけて、テキスト エディタで開きます。
2. サイレント インストーラが成功したかどうかを判別するには、セットアップで実行された各操作のステータス メッセージを確認します。

インストール ログには、インストーラによって実行された各操作について SUCCESSFUL、WARNING、または ERROR が記録されます。また、インストール ログには、成功、警告、致命的ではないエラー、またはエラーの数を集計した概要も含まれています。

たとえば、ある操作は以下のように表示されます。

```
Install File: C:\Program Files\Silk\SilkTest\ng\recorder\plugins\
              com.borland.silktest.recorder_11.1.0.4440\plugin.xml
Status: SUCCESSFUL
```

概要は以下のように表示されます。

Summary

Installation: Successful.

2497 Successes

0 Warnings

0 NonFatalErrors

0 FatalErrors

エラーコードの参照

インストールエラーコードを参照して、サイレントインストール中に発生したエラーを分析します。

1. インストールを開始して実行するバッチファイルを作成します。
たとえば、以下のコードを使用して install.bat という名前のファイルを作成します。

```
@echo off
install.exe -I silent -f SilentInstall.properties
echo %errorlevel%
pause
```

2. インストールのコードを確認します。
以下の表は、コード キー名の戻り値の一覧です。


コード	説明
0	成功：インストールは警告やエラーなしで正常に完了しました。
1	インストールは正常に完了しましたが、インストールシーケンスの1つまたは複数の操作で警告または致命的ではないエラーが発生しました。
-1	インストールシーケンスの1つまたは複数の操作で致命的なエラーが発生しました。
1000	インストールはユーザーによって取り消されました。
1001	インストールに無効なコマンドラインオプションが含まれています。
2000	未処理のエラー。
2001	インストールで認証チェックに失敗しました。期限切れのバージョンを示している場合があります。
2002	インストールでルールチェックに失敗しました。インストーラ自体に設定されたルールが失敗しました。
2003	サイレントモードでの依存関係が解決されないため、インストーラは終了しました。

コード	説明
2004	インストール操作の実行中に十分なディスク領域が検出されなかったため、インストールに失敗しました。
2005	Windows 64 ビットシステム上にインストールしようとしたが、インストールに Windows 64 ビットシステムのサポートが含まれていなかったため、インストールに失敗しました。
2006	このインストーラではサポートされていない UI モードで起動されたため、インストールに失敗しました。
3000	起動ツールに固有の未処理のエラー。
3001	lax.main.class プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3002	lax.main.method プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3003	lax.main.method プロパティに指定されたメソッドにインストールからアクセスできませんでした。
3004	lax.main.method プロパティによって発生した例外エラーが原因で、インストールに失敗しました。
3005	lax.application.name プロパティに値が割り当てられなかったため、インストールに失敗しました。
3006	lax.nl.java.launcher.main.class プロパティに割り当てられた値にインストールからアクセスできませんでした。
3007	lax.nl.java.launcher.main.class プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3008	lax.nl.java.launcher.main.method プロパティに固有のエラーが原因で、インストールに失敗しました。
3009	lax.nl.launcher.java.main.method プロパティに指定されたメソッドにインストールからアクセスできませんでした。
4000	java.home システム プロパティで指定されたディレクトリで Java 実行可能ファイルが見つかりませんでした。
4001	インストーラの jar へのパスが正しくないため、再起動ツールが誤って起動しました。

表 1 : インストーラの終了コード

サイレントモードでのアンインストール

ユーザーの操作なしで SilkTest をアンインストールする場合は、サイレントモードでアンインストールします。

 **注:** 製品をインストールした方法にかかわらず、サイレントモードを使用して SilkTest をアンインストールできます。ただし、SilkTest をサイレントモードでインストールすると、アンインストールモードもサイレントで実行されます。

1. Uninstall_SilkTest 2010 R2 フォルダを見つけます。

Uninstall_SilkTest 2010 R2.exe がこのフォルダ内にあります。

2. サイレントモードのアンインストール手順を実行するには、DOS シェルやバッチ ファイルから以下のコマンドのいずれかを入力します。

- SilkTest をサイレント モードでインストールした場合は、以下のコマンドを入力します。

```
<SilkTest
Install Directory>%Silk%\SilkTest\Uninstall_SilkTest 2010 R2\Uninstall_SilkTest 2010 R2.exe
```

- SilkTest をサイレント モードでインストールしなかった場合は、以下のコマンドを入力します。

```
<SilkTest
Install Directory>%Silk%\SilkTest\Uninstall_SilkTest 2010 R2\Uninstall_SilkTest 2010 R2.exe
-I silent
```

たとえば、SilkTest をサイレント モードでインストールしなかった場合、以下のようにコマンドを入力します。

```
C:%Program Files%\Silk%\SilkTest\Uninstall_SilkTest 2010 R2\Uninstall_SilkTest 2010 R2.exe
-I silent
```

次に実行すること


チュートリアルの実行

SilkTest をはじめて使用する場合は、SilkTest チュートリアルを実行することをお勧めします。チュートリアルは、**スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest 2010 R2 ▶ ドキュメント ▶ SilkTest チュートリアル** から利用できます。

SilkTest Workbench データベースの構成

このセクションでは、SilkTest Workbench データベースを構成する方法を説明するトピックを示します。

SQL Server データベースの構成の概要

 **重要:** データベースの設定と構成は、データベース管理者またはデータベースの管理に関する一般的な知識を持つ方が行うことをお勧めします。

SilkTest Workbench は、SilkTest Workbench で使用するために構成されたデータベースにテスト資産を格納してアクセスします。このセクションでは、以下の SQL Server データベースを SilkTest Workbench データベースとして使用する場合の構成方法について説明します。

- SQL Server 2008
- SQL Server 2008 Express
- SQL Server 2005
- SQL Server 2005 Express


SQL Server の要件

SilkTest Workbench で使用するように SQL Server データベースを構成する場合は、以下の要件があります。

- SilkTest Workbench を実行するすべてのコンピュータは、SQL Server データベースが常駐するコンピュータにアクセスでき、新しいデータ ソースが構成されている必要があります。
- SilkTest Workbench は、データベースにアクセスするすべてのコンピュータにインストールされている必要があります。
- SilkTest Workbench データベース接続ファイルが、SQL Server データベースを指すように構成されている必要があります。

SQL Server 2008 Express の場合、構成に関する以下の前提条件が SilkTest インストーラによって自動的に実行されます。

- インスタンス **SilkTestw** およびパスワード **silktestw** が指定された SQL Server 2008 Express データベース
- 管理者権限を持つユーザー **SilkTestAdmin** (パスワード: **SilkTestAdmin**)。一般ユーザー **SilkTestUser** (パスワード **SilkTestUser**)。
- データ ソース名 (DSN) **SilkTest_SQL**
- データベース所有者/スキーマ **SilkTestDB**

 **注:** SilkTest では、64 ビットの DSN は使用できません。この結果、64 ビット マシンの場合、インストール時に SilkTest によって 32 ビットの DSN が作成されます。64 ビット マシンのデフォルトの DSN と ODBC ドライバは、C:\Windows\SysWow64 にある WOW64 ツールを使用して確認できません。

デフォルトの SilkTest Workbench SQL Server 2008 Express データベースを管理する方法の詳細については、『*SilkTest Workbench ヘルプ*』のトピック「データベース メンテナンス」を参照してください。


SQL Server データベースの新規作成

このセクションでは、SQL Server Management Studio を使用して SQL Server 2005/2008 データベースを作成する方法について説明します。以下の手順以外に、SilkTest Workbench データベース メンテナンス ユーティリティを使用して、データベースに SilkTest Workbench テーブルを入力する必要もあります。

1. SQL Server Management Studio のオブジェクト エクスプローラで、**データベース** フォルダを右クリックして **新しいデータベース** を選択します。
新しいデータベース ダイアログ ボックスが開きます。
2. **データベース名** テキスト ボックスにデータベースの名前を入力します。
3. **OK** をクリックします。

SQL Server 管理ユーザーの新規作成

これ以降の設定手順を実行するには、システム管理者権限を持つ SQL Server ユーザーが必要です。


 **注:** SQL Server 2008 Express の場合、SilkTest Workbench によって、管理者権限を持つユーザー **SilkTestAdmin** がパスワード **SilkTestAdmin** で自動的に作成されます。

1. システム管理者権限を持つユーザーを新規作成するには、以下のステップを実行します。
 - a) SQL Server Management Studio のオブジェクト エクスプローラで、**セキュリティ** フォルダに移動して、展開します。
 - b) **ログイン** フォルダを右クリックして、**新しいログイン** をクリックします。
ログイン - 新規作成 ダイアログ ボックスが開きます。
 - c) **全般** ページを選択し、**ログイン名** テキスト ボックスにユーザー名を入力します。
 - d) [SQL Server 認証] を選択し、パスワードを入力します。
 - e) **既定のデータベース** リストから、デフォルト データベースを選択します。
 - f) **サーバー ロール** ページを選択し、**サーバー ロール** リストで **sysadmin** のチェック ボックスをオンにします。
 - g) **ユーザー マッピング** ページを選択します。
 - h) **マップ** 列で、新しいログインでアクセスできるデータベースのチェック ボックスをオンにします。
デフォルトで、**ユーザー** 列にログイン名が表示されています。この値はそのままにします。
 - i) **データベース ロールのメンバシップ** リストで、**db_owner** のチェック ボックスをオンにします。
 - j) **OK** をクリックします。
2. 新しいユーザーのスキーマを新規作成するには、以下のステップを実行します。

- a) **オブジェクト エクスプローラ** で、スキーマを作成するデータベースに移動します。
 - b) データベース オブジェクト ツリーを展開して、**スキーマ** フォルダを表示します。
スキーマ フォルダは、データベースの **セキュリティ** フォルダの子です。
たとえば、スキーマをマスタデータベースに追加する場合は、**データベース ▶ システム データベース ▶ マスタ ▶ セキュリティ** フォルダを展開して **スキーマ** フォルダを表示します。
 - c) **スキーマ** フォルダを右クリックして、**新しいスキーマ** を選択します。
 - d) **スキーマ名** テキスト ボックスに、新しいスキーマの名前を入力します。
新しいスキーマ名は、以前にシステム管理者権限を使用して作成したユーザー名と一致する必要があります。
 - e) スキーマの所有者として新しいユーザーにシステム管理者権限を割り当てます。
 - f) **OK** をクリックします。
3. 新たに作成したユーザーを選択し、デフォルトのスキーマを新たに作成したスキーマに設定します。


SQL Server におけるユーザーの設定

以下の手順は、SQL Server データベースに接続する必要がある各ユーザーに対し、データベース サーバー コンピュータで実行してください。


1. SQL Server Management Studio のオブジェクト エクスプローラで、**セキュリティ** フォルダに移動して、展開します。**ログイン** フォルダを右クリックして、**新しいログイン** をクリックします。
ログイン - 新規作成 ダイアログ ボックスが開きます。
 2. **全般** ページを選択し、**ログイン名** テキスト ボックスにデータベースの名前を入力します。
 3. **Windows 認証** または **SQL Server 認証** を選択します。
 4. **既定のデータベース** リストから、デフォルト データベースを選択します。
 5. **ユーザー マッピング** ページを選択します。
 6. **マップ** 列で、ユーザーのログインでアクセスできるデータベースのチェック ボックスをオンにします。
デフォルトで、**ユーザー** 列にログイン名が表示されています。この値はそのままにします。
 7. **既定のスキーマ** 列に、既定のスキーマを入力します。
SilkTest Workbench で既定のスキーマを使用するには、既定のスキーマが、以前にシステム管理者権限を使用して作成したユーザーのスキーマと一致する必要があります。
 8. **データベース ロールのメンバシップ** リストで、デフォルト オプション **public** を選択したままにしておきます。
 9. **db_datareader** および **db_datawriter** チェック ボックスをオンにします。
 10. **OK** をクリックします。
-  **重要:** 複数のユーザーが SQL Server Express を使用するには、各 SQL Server Express インストールでリモート接続が有効になっている必要があります。SQL Server Express でリモート接続を有効にする方法については、Microsoft のサポート技術情報『*How to enable remote connections on SQL Server*』を参照してください。

SQL Server SilkTest Workbench データベースの準備

SilkTest Workbench で使用する新しい SQL Server データベースを準備する必要があります。このセクションでは、データベース メンテナンス ユーティリティを使用してデータベースに SilkTest Workbench テーブルを入力する方法について説明します。

 **注:** SQL Server 認証モードを SQL Server と Windows (混合モード) に設定して、データベース メンテナンス ユーティリティを使用して SQL Server データベースに接続できるようにする必要があります。この設定は、データベース メンテナンス タスクを実行したあと変更できます。


1. **スタート > すべてのプログラム > Silk > SilkTest > 管理ツール > データベース メンテナンス** を選択して、データベース メンテナンス ユーティリティを起動します。
2. **ファイル > 新規作成 > SQL Server** を選択します。
SQL Server データ ソースの接続 ダイアログ ボックスが開きます。
3. 新しい SQL Server データ ソースの名前を入力するか、**参照** をクリックして **ODBC データ ソースの選択** ダイアログ ボックスからデータ ソース名を選択します。
4. 該当するテキストボックスに、データベースの所有者の名前、SQL Server ユーザー ID、およびパスワードを入力し、**作成** をクリックします。

 **注:** 各 DSN 名に関連付けることができるスキーマは1つだけです (ODBC接続)。選択した DSN 名がすでにスキーマに関連付けられている場合は、**置換** をクリックして DSN 名に関連付けを現在のスキーマから新しいスキーマに変更するか (ユーザーは、古いスキーマの SilkTest Workbench テーブルにはアクセスできなくなります)、**エイリアス** をクリックして DSN 名のエイリアスを作成します。

これで、SilkTest Workbench を起動してログオンする準備が整いました。

Oracle データベースの構成の概要

このセクションでは、SilkTest Workbench で使用する Oracle データベースを設定する方法について説明します。

 **注:** 以下の手順は、その実行者が Oracle データベース管理システムに精通していることを前提としています。データベースの設定と構成は、データベース管理者またはデータベースの管理に関する一般的な知識を持つ方が行うことをお勧めします。

各クライアントコンピュータでは、データベースに接続するために ODBC データソースが必要となります。この結果、SilkTest Workbench 用の Oracle データベースに接続するには、以下の条件を満たす必要があります。

- SilkTest Workbench を実行するすべてのコンピュータは、データベースが常駐するコンピュータにアクセスでき、新しいデータソースが構成されている必要があります。
- SilkTest Workbench は、データベースにアクセスするすべてのコンピュータにインストールされている必要があります。

- SilkTest Workbench を実行するすべてのコンピュータに、適切なデータベース クライアント接続ソフトウェアがインストールされている必要があります。
- データベース接続は、SilkTest Workbench で使用するために構成する必要があります。

認証方式の選択

SilkTest Workbench では、Oracle OS 認証（Windows NT）と Oracle データベース認証のいずれかを使用することができます。Oracle OS認証を使用する場合、追加のインストール手順が必要になります。

Oracle OS認証

このトピックでは、Oracle OS 認証を使用する場合に、ユーザーを作成して接続権限を付与する方法について説明します。これらのステップを実行する前に、以下の点を考慮してください。

- ORA_DBA グループのメンバであり、かつ、SYSDBA 権限がある必要があります。
- ユーザーを作成する際は、ユーザーがDOMAINコントローラによって認証されていることをOracleが認識できるようにする必要があります。
- ユーザーの作成には SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を使用します。SQL*Plusを使い慣れていない場合は、Oracleのマニュアルを参照してください。
- ユーザーはWindowsNTドメイン内に作成し、ORA_DBAグループに追加する必要があります。Windowsドメインの使用の詳細については、Microsoft Windowsのマニュアルを参照してください。
- Oracle で SilkTest Workbench のユーザーを設定する場合、リモートで認証されるユーザーに加え、実際のテーブルを格納するためのスキーマを作成します。このスキーマはドメインで認証されず、パスワードで認証されます。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. **SYSTEM** としてログオンし、**SYSDBA** として接続します。
3. 各ユーザーを "DOMAIN¥USERNAME" IDENTIFIED EXTERNALLY として作成し、接続権限およびシステム権限を付与するコマンドを、以下の例に示すように入力します。

各ユーザーは "DOMAIN¥USERNAME" のように入力します。DOMAIN¥USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。DOMAIN¥USERNAME は各ユーザーのドメインとユーザー名です。

例：

```
CREATE USER "NT-DOMAIN¥JEFF" IDENTIFIED EXTERNALLY;  
GRANT SELECT ANY SEQUENCE TO "NT-DOMAIN¥JEFF";  
GRANT UNLIMITED TABLESPACE TO "NT-DOMAIN¥JEFF";  
GRANT "CONNECT" TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
```

```
GRANT "RESOURCE" TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
GRANT "SELECT_CATALOG_ROLE" TO "NT-DOMAIN¥JEFF";
```

👉 **重要:** Microsoft のオペレーティング システムでは、ユーザーを照会すると DOMAIN¥USERNAME が返されます。この値がデータベースの定義と一致しない場合は、Oracle OS 認証で ORA-1017 のエラーが発生します。

4. SQL*Plus を使用してデータベースに接続することにより、Oracle OS 認証が正しく設定されているかどうかをテストします。
 - a) ユーザー名には「/」と入力します。
 - b) [パスワード] テキスト ボックスは空のままにし、ホスト文字列を正しく入力します。
 - c) **OK** をクリックします。
ログオンできた場合は、Oracle OS 認証が正しく機能していることを意味します。

Oracle データベース認証

このトピックでは、Oracle データベース認証を使用する場合に、ユーザーを作成して接続権限を付与する方法について説明します。これらのステップを実行する前に、以下の点を考慮してください。

- ORA_DBA グループのメンバであり、かつ、SYSDBA 権限がある必要があります。
- ユーザーを作成する際は、ユーザーが DOMAIN コントローラによって認証されていることを Oracle が認識できるようにする必要があります。
- ユーザーの作成には SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を使用します。SQL*Plus を使い慣れていない場合は、Oracle のマニュアルを参照してください。
- ユーザーは Windows NT ドメイン内に作成し、ORA_DBA グループに追加する必要があります。Windows ドメインの使用の詳細については、Microsoft Windows のマニュアルを参照してください。
- Oracle で SilkTest Workbench のユーザーを設定する場合、リモートで認証されるユーザーに加え、実際のテーブルを格納するためのスキーマを作成します。このスキーマはドメインで認証されず、パスワードで認証されます。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. **SYSTEM** としてログオンし、**SYSDBA** として接続します。
3. 各ユーザーを "USERNAME" IDENTIFIED BY "ORACLEPASSWORD" として作成し、接続権限およびシステム権限を付与するコマンドを、以下の例に示すように入力します。

各ユーザーは "USERNAME" のように入力します。USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。DOMAIN¥USERNAME は各ユーザーのユーザー名です。


例：

```
CREATE USER "JEFF" IDENTIFIED BY "ORACLEPASSWORD";
GRANT SELECT ANY SEQUENCE TO "JEFF"
GRANT UNLIMITED TABLESPACE TO "JEFF"
GRANT "CONNECT" TO "JEFF";
GRANT "RESOURCE" TO "JEFF";
GRANT "SELECT_CATALOG_ROLE" TO "JEFF";
```


Oracle データベースの新規作成

文字セットとして UTF8 を使用する新規 Oracle データベースを作成します。詳細については、Oracle の製品マニュアルを参照してください。

Oracle 認証の設定


 **注:** この手順は、Oracle OS 認証を使用する場合にのみ必要です。Oracle データベース認証を使用する場合は、Oracle クライアントを設定する必要があります。

1. データベースがあるサーバーで、Oracle をインストールしたディレクトリにある Oracle 初期化ファイルを探します。
2. Oracle初期化ファイルで、以下のパラメータの値を設定します。
 - remote_login_passwordfile = none
 - remote_os_authent = true
 - os_authent_prefix = ""

 **注:** パラメータと値のうち存在しないものがある場合は、追加する必要があります。Oracle 11g では、remote_os_authent および os_authent_prefix パラメータはデフォルトで設定されています。

3. Oracle をインストールしたディレクトリで、SQLNET.ORA ファイルを探します。
このファイルは、Oracleのメインインストールディレクトリの下の ORACLE_HOME¥Network¥Admin ディレクトリにあります。ORACLE_HOME は、インストール時に Oracle ホームに割り当てた名前です。
4. SQLNET.ORA を開いて、以下のようにパラメータの値を設定します。

```
sqlnet.authentication_services = (NTS)
```

 **注:** このパラメータの行頭が # でコメントアウトされていないことを確認します。このパラメータは、追加する必要がある場合があります。

5. スタートメニューから、**ファイル名を指定して実行** ダイアログボックスにアクセスします。
6. **名前** テキストボックスに「**regedit**」と入力して **OK** をクリックします。
レジストリ エディタ ダイアログボックスが開きます。
7. HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥HOMEn (n は Oracle インストールに関連付けられた番号) パスで、HOMEn を右クリックして、**新規 ▶ 文字列値** を選択します。
レジストリ エディタの右側のウィンドウに、新しい文字列の値が表示されます。
8. デフォルトの名前である新しい値 #1 を OSAUTH_PREFIX_DOMAIN で置き換えます。
9. 作成した文字列の値をダブルクリックします。
文字列の編集 ダイアログボックスが開きます。
10. **値のデータ** テキストボックスに「**TRUE**」と入力して **OK** をクリックします。

Oracle クライアントの設定


接続元として使用するクライアント コンピュータで、以下を実行します。

1. Oracle をインストールしたディレクトリで、SQLNET.ORA ファイルを探します。

このファイルは、Oracleのメインインストールディレクトリの下のORACLE_HOME¥Network¥Adminディレクトリにあります。ORACLE_HOMEは、インストール時にOracleホームに割り当てた名前です。

2. SQLNET.ORA を開いて、以下のようにパラメータの値を設定します。

```
sqlnet.authentication_services = (NTS)
```

 **注:** このパラメータの行頭が # でコメントアウトされていないことを確認します。このパラメータは、追加する必要がある場合があります。

3. Oracle をインストールしたディレクトリにある TNSNAMES.ORA ファイルを開きます。


このファイルは、ORACLE_HOME¥Network¥Admin ディレクトリにあります。

4. サーバーのデータベースエントリをクライアント コンピュータ上の TNSNAMES.ORA ファイルにコピーします。

例 :

```
ORACLE_SID.DOMAIN.COM=  
(DESCRIPTION=  
(ADDRESS_LIST=  
(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=SERVERNAME)(PORT=1521))  
)  
(CONNECT_DATA=  
(SERVICE_NAME=ORACLE_SID)  
)  
)
```

クライアント接続用の Oracle データベースの準備

 **注:** この手順は、Oracle OS 認証および Oracle クライアントを使用して SilkTest Workbench データベースを設定する場合にのみ必要です。Oracle データベース認証を使用する場合は、ユーザーの設定を開始することができます。

1. ドメインユーザー マネージャがインストールされているコンピュータで、Windows の **コントロールパネル** にアクセスし、**管理ツール > コンピュータの管理** を選択します。

コンピュータの管理 ユーティリティが開きます。

2. ツリー ビューで、**ローカル ユーザーとグループ** をクリックします。

3. **グループ** をクリックします。

Oracle がインストールされている場合、ORA_DBA という名前のグループが表示されます。表示されない場合は、追加する必要があります。

次に、ユーザーに対してサーバー アクセスを作成します。

ORA_DBA グループの作成

1. **コンピュータの管理** ユーティリティのツリー ビューで、**グループ** を右クリックして **新しいグループ** を選択します。
新しいグループ ダイアログ ボックスが開きます。
2. **グループ名** テキスト ボックスに「ORA_DBA」と入力します。
3. **作成** をクリックします。
4. **閉じる** をクリックします。

ユーザーに対するサーバー アクセスの作成

ユーザー アカウントを個別に作成するには、以下の手順に従います。

1. **コンピュータの管理** ユーティリティのツリー ビューで、**ローカル ユーザーとグループ** をクリックします。
2. **グループ** をクリックします。
3. 右側のペインで、**ORA_DBA** をダブルクリックします。
ORA_DBAのプロパティ ダイアログ ボックスが開きます。
4. **追加** をクリックします。
ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択 ダイアログ ボックスが開きます。
5. **詳細設定** をクリックし、**共通クエリ** タブを使用してユーザーを検索し、**今すぐ検索** をクリックして、リストからユーザーを選択します。

または、**選択するオブジェクト名を入力してください** テキスト ボックスをクリックし、**domain name¥user ID** を入力します。

domain name はユーザーが所属するドメインの名前であり、**user ID** はアクセス権を付与する対象ユーザーのネットワーク ID です。


6. **OK** をクリックしてユーザー情報を保存し、**ORA_DBAのプロパティ** ダイアログ ボックスに戻ります。
ステップ 4~6 を繰り返して、その他のユーザー アカウントを作成します。
7. **Users** の**プロパティ** ダイアログ ボックスで **OK** をクリックし、**コンピュータの管理** ユーティリティに戻ります。

SilkTest Workbench のユーザーの設定

このセクションでは、ユーザーを作成してユーザーの接続権限を付与する方法について説明します。この手順はOracle OS認証またはOracle データベース認証のどちらを使用する場合にも必要です。手順は認証タイプによって異なります。

パスワード認証スキーマの作成

SilkTest Workbench テーブルが格納されるパスワード認証スキーマを設定するには、以下のステップを実行します。

 **注:** SQL シリーズにおける Oracle の文字数制限のため、パスワード認証スキーマは 5 文字以下で指定する必要があります。

1. SQL*Plus または SQL*Plus Worksheet を起動します。
2. **SYSTEM** としてログオンし、**SYSDBA** として接続します。
3. 各ユーザーを作成するコマンドを "USERNAME" IDENTIFIED AS "ORACLEPASSWORD" として入力し、各ユーザーの接続権限を "USERNAME" として付与します。

USERNAME は大文字で入力し、二重引用符で囲みます。USERNAME は各ユーザーのユーザー名です。
例：

```
SQL> create user "TOM" IDENTIFIED AS "ORACLEPASSWORD";  
SQL> grant connect, resource to "TOM";
```

Oracle データベースの準備

SilkTest Workbench で使用する新しい Oracle データベースを準備する必要があります。このセクションでは、データベース メンテナンス ユーティリティを使用してデータベースに SilkTest Workbench テーブルを入力する方法について説明します。

1. **スタート** > **すべてのプログラム** > **Silk** > **SilkTest** > **管理ツール** > **データベース メンテナンス** を選択して、データベース メンテナンス ユーティリティを起動します。
2. **ファイル** > **新規作成** > **Oracle** をクリックします。
Oracle データソースの接続 ダイアログ ボックスが開きます。
3. 新しい Oracle データソースの名前を入力するか、**参照** ボタンをクリックして **ODBC データソースの選択** ダイアログ ボックスからデータソース名を選択します。
4. 該当するボックスに、Oracle ユーザー ID の名前、パスワードを入力し、**作成** をクリックします。
スキーマ ボックスには、ユーザー ID に入力した値が自動的に入力されます。

これで、SilkTest Workbench を起動してログオンする準備が整いました。


ドメインなしでの SQL Server または Oracle データベースの設定

SilkTest Workbench で使用する Oracle または SQL Server のデータベースを設定する際は、ドメイン内の認証を使用することを強くお勧めします。ただし、ドメインに所属しない場合でも、これらのデータベースを設定することは可能です。

このセクションでは、ドメインを使用して SQL Server または Oracle データベースを設定する具体的な方法について説明します。

ドメインなしでのユーザーの作成

ドメインがない場合に SQL Server または Oracle データベースを設定するには、最初にクライアント コンピュータとサーバー コンピュータの両方でユーザー アカウントを作成する必要があります。

 **注:** この手順はWindows NT認証を使用する場合にのみ適用されます。

1. Windows の **コントロール パネル** にアクセスし、**管理ツール > コンピュータの管理** を選択します。
コンピュータの管理 ユーティリティが開きます。
2. 左側のペインで、**ローカル ユーザーとグループ** をクリックします。
3. **ローカル ユーザーとグループ** で、**ユーザー** フォルダを右クリックし、**新しいユーザー** を選択します。
新しいユーザー ダイアログ ボックスが開きます。
4. **ユーザー名** テキスト ボックスに有効なユーザー名を入力し、**フル ネーム** テキスト ボックスにそのユーザーのフルネームを入力します。
5. **パスワード** と **パスワードの確認入力** の両方のテキスト ボックスに有効なパスワードを入力し、**作成** をクリックします。
6. 各クライアント コンピュータでそのユーザー名とパスワードを使用して、上記の手順を繰り返します。

ドメインなしでの SQL Server の設定

ドメインがない場合に SQL Server を設定するには :

1. Windows の **コントロール パネル** にアクセスし、**管理ツール > コンピュータの管理** を選択します。
コンピュータの管理 ユーティリティが開きます。
2. 左側のペインで、**ローカル ユーザーとグループ** を展開し、**グループ** をクリックします。
3. 右側のペインで、**Users** をダブルクリックします。
Users のプロパティ ダイアログ ボックスが開きます。
4. **追加** をクリックします。
ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択 ダイアログ ボックスが開きます。
5. **詳細設定** をクリックし、**共通クエリ** タブを使用してユーザーを検索します。
6. **今すぐ検索** をクリックして、リストからユーザーを選択します。
または、**選択するオブジェクト名を入力してください** テキスト ボックスをクリックし、アクセス権を付与する対象ユーザーの **[user ID]** を入力します。 **[user ID]** :
7. **OK** をクリックしてユーザー情報を保存し、**Users のプロパティ** ダイアログ ボックスに戻ります。
8. 上記のステップを繰り返して、その他のユーザー アカウントを作成します。
9. **OK** をクリックします。

ドメインなしでの Oracle データベースの設定

ドメインがない場合に Oracle を設定するには、個別のユーザー アカウントに対してサーバー アクセスを作成する手順に従います。ただし、ドメインなしでユーザーを作成する手順で作成したユーザー名を置き換えます。

1. 選択するオブジェクト名を入力してください テキスト ボックスに、`[domain name]¥[user ID]` や `[domain name]¥[group name]` ではなくユーザー名を入力します。

コンピュータの管理 ユーティリティが表示されます。

2. ユーザーを設定します。

SQL*Plus を使用してユーザーを作成する場合は、以下の例に示すように `[domain name¥user name]` を `[computer name¥user name]` に置き換えます。


```
SQL> create user "FH0002RED¥USER1" IDENTIFIED EXTERNALLY;  
SQL> grant connect, resource to "FH0002RED¥USER1";
```

 注:

`[computer name¥user name]` の場合、大文字を使用して引用符で囲みます。

データ ソース名の作成の概要

SilkTest Workbench 用の SQL Server、Access、Oracle のデータベースに接続する各コンピュータで、ODBC ユーティリティを使用してデータ ソース名 (DSN) を作成する必要があります。

 注: このステップは、SilkTest Workbench インストーラによってインストールされたデフォルトの SQL Server Express データベースと Access データベースには適用されません。これらのデータベースでは、データ ソース名が自動的に作成されます。

Access データベース用のデータ ソース名の作成


Access データベースに接続する各クライアント コンピュータで、以下の手順に従って DSN を設定します。

1. [コントロールパネル] にアクセスし、**管理ツール ▶ データ ソース (ODBC)** を選択します。
ODBC データ ソース アドミニストレータ ダイアログ ボックスが開きます。
2. **システム DSN** タブをクリックし、**追加** をクリックします。
データ ソースの新規作成 ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスには、使用可能な ODBC ドライバがリストされます。
3. ドライバのリストから **Microsoft Access Driver** を選択し、**完了** をクリックします。
ODBC Microsoft Access セットアップ ダイアログ ボックスが開きます。
4. **データ ソース名** テキスト ボックスに、データ ソース名を入力します。

この名前はログオン ダイアログ ボックスでデータベース名として表示されるため、論理名を入力します。

5. **説明** テキスト ボックスに、データ ソースの説明を入力します。
たとえば、「**SilkTest Workbench データベースへの接続**」です。
6. **選択** をクリックして、Access データベースを参照します。
7. **ODBC Microsoft Access セットアップ** ダイアログ ボックスで、**OK** をクリックします。
8. **ODBC アドミニストレータ** ダイアログ ボックスで、**OK** をクリックしてプロセスを完了します。

SQL Server データベース用のデータ ソース名の作成

 **注:** SilkTest Workbench では、64 ビットの DSN は使用できません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、C:\¥WINDOWS¥SysWOW64¥odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用して、32 ビットの DSN を作成します。

SQL Server データベースに接続する各クライアント コンピュータで、以下の手順に従って DSN を設定します。

1. [コントロールパネル] にアクセスし、**管理ツール ▶ データ ソース (ODBC)** を選択します。
ODBC データ ソース アドミニストレータ ダイアログ ボックスが開きます。
2. **システム DSN** タブをクリックし、**追加** をクリックします。
データ ソースの新規作成 ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスには、使用可能な ODBC ドライバがリストされます。
3. ドライバのリストから **SQL Native Client** を選択し、**完了** をクリックします。
SQL Server に接続するための新規データ ソースを作成する ダイアログ ボックスが開きます。
4. **名前** ボックスに、データ ソース名を入力します。
この名前はログオン画面でデータベース名として表示されるため、論理名を入力します。
5. **説明** テキスト ボックスに、データ ソースの説明を入力します。
たとえば、「**SilkTest Workbench データベースへの接続**」です。
6. サーバー名を **サーバー** テキスト ボックスに入力するか、ドロップダウン リストから選択します。
7. **次へ** をクリックします。
8. 以下のいずれかを実行します。
 - DSN を使用して SQL Server データベースにアクセスするユーザーが非ネイティブのアカウント情報によって接続している場合、**ネットワークへのログイン ID で、Windows の認証メカニズムを使う** オプションを選択します。
 - DSN を使用して SQL Server データベースにアクセスするユーザーがネイティブ認証によって接続している場合、**ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う** オプションを選択します。**SQL Server に接続して追加の構成オプションの既定設定を取得する** チェック ボックスがオンになっていることを確認してください。ユーザーのネイティブ SQL Server ログオン情報を、**ログイン ID とパスワード** の各テキスト ボックスに入力します。
9. **次へ** をクリックします。

10. **既定のデータベースを以下のものに変更する** チェック ボックスをオンにして、リストからデータベースの名前を選択します。
11. その他のエントリはすべてそのままにし、ウィザードの最後のパネルが表示されるまで **次へ** をクリックします。
12. デフォルトをそのまま使用し、**完了** をクリックします。
13. 接続をテストするには、**データソースのテスト** をクリックします。
SQL Server ODBC データソーステスト ダイアログ ボックスが開きます。
14. **OK** をクリックします。


ODBC データソースアドミニストレータ ダイアログ ボックスが再表示されます。新しく作成したデータソースが **システム データソース** リストに表示されます。
15. **OK** をクリックします。

Oracle データベース用のデータソース名の作成

Oracle データベースに接続する各クライアント コンピュータで、以下の手順に従って DSN を設定します。

1. [コントロールパネル] にアクセスし、**管理ツール ▶ データソース (ODBC)** を選択します。
ODBC データソースアドミニストレータ ダイアログ ボックスが開きます。
 2. **システム DSN** タブをクリックし、**追加** をクリックします。
データソースの新規作成 ダイアログ ボックスが開きます。このダイアログ ボックスには、使用可能な ODBC ドライバがリストされます。
 3. ドライバのリストから、使用する Oracle データベースのバージョンに適した Oracle ODBC ドライバ (Microsoft ODBC for Oracle ドライバではない) を選択し、**完了** をクリックします。
Oracle ODBC ドライバ構成 ダイアログ ボックスが開きます。
 4. **Oracle データソース名** テキスト ボックスに、データソース名を入力します。

この名前はログオン ダイアログ ボックスでデータベース名として表示されるため、論理名を入力します。
 5. **説明** テキスト ボックスに、データソースの説明を入力します。
たとえば、「**SilkTest Workbench データベースへの接続**」です。
 6. **TNS サービス名** テキスト ボックスに、接続先とするデータベースのサービス名を ORACLE_SID.DOMAIN の形式で入力します。ORACLE_SID はデータベースの作成時に割り当てた Oracle SID で、ドメインは接続先のドメインになります。
 7. Oracle 認証を使用する場合は、接続先のデータベースの有効なユーザー ID を **ユーザー ID** テキスト ボックスに入力します。それ以外の場合は、**ユーザー ID** テキスト ボックスは空のままにします。
 8. 接続をテストするには、**接続テスト** をクリックします。

 **注:** Oracle データベース認証を使用する場合、ユーザー名を入力してから、パスワードを入力します。Oracle OS認証では、ユーザー名を指定しないでください。
- 正常に接続されたことを示すメッセージが表示されます。
9. **OK** をクリックします。

データベースへの接続の概要

SilkTest Workbench をインストールしてデータベースを構成したあと、データベース接続を作成する必要があります。この接続によって、SilkTest Workbench データベースと SilkTest Workbench インストールとの関係を定義します。このセクションでは、ログオンしてデータベース接続を作成する方法について説明するトピックを示します。

ログオン

1. **スタート ▶ すべてのプログラム ▶ Silk ▶ SilkTest <バージョン> ▶ SilkTest Workbench**を選択します。
SilkTest Workbench が起動され、**SilkTest Workbench にログイン** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **ユーザー名** テキスト ボックスにユーザー名を入力し、**パスワード** テキスト ボックスにパスワードを入力します。
SilkTest Workbench をはじめて使用する場合は、管理者権限を持つユーザー名とパスワードが必要になる場合があります。デフォルトのユーザー名は Admin で、デフォルトのパスワードは admin です。不正アクセスを防ぐため、このパスワードはログオンのあとで変更してください。ログオンパスワードはいつでも変更できます。
3. **データベース** リストから、使用するデータベースを選択します。
データベースが **データベース** リストに表示されるようにするには、まずデータベース接続を使用できるように構成する必要があります。データベース接続を構成するには、**ログオン** ダイアログ ボックスで **構成** ボタンをクリックします。
4. **OK** をクリックします。
開始画面 が開きます。

ログオン パスワードの変更

ログオン パスワードを変更するには、以下の手順に従います。

1. **ツール ▶ パスワードの変更** をクリックします。
パスワードの変更 ダイアログ ボックスが開きます。
2. パスワードを変更し、**OK** をクリックします。
このユーザー ID を使って次回ログオンしたとき、変更が有効になります。


データベース接続の構成


SilkTest Workbench でデータベースを使用する前に、データベース接続を構成する必要があります。構成処理には、**データベース接続の構成** ダイアログ ボックスを使用した以下のタスクの実行が含まれています。

- データベース接続を開始するために必要なデータベース接続データを指定します。
- データベースへの接続を検証します。
- データベース接続のデータを保存します。

既存のすべての構成済みデータベース接続は、SilkTest Workbench ダイアログ ボックスにある **データベース** リストに表示されます。

データベース接続の構成 ダイアログ ボックスは、既存の構成済みデータベース接続の表示、編集、および削除に使用することもできます。

 **注:** SilkTest Workbench で使用するデータベース接続を構成する前に、データベース インスタンスと ODBC データ ソース名 (DSN) を作成および構成しておく必要があります。

 **注:** SilkTest Workbench では、64 ビットの DSN は使用できません。64 ビット マシンで DSN を作成するには、C:\WINDOWS\System32\odbcad32.exe にある WOW64 ツールを使用して、32 ビットの DSN を作成します。

1. **SilkTest Workbench にログイン** ダイアログ ボックスで、**構成** をクリックします。
データベース接続の構成 ダイアログ ボックスが開きます。
2. **データ ソースの種類** セクションで、データ ソースの種類を選択します。
3. **データ ソースの選択** リストで、使用可能な DSN のリストから選択します。
4. 選択した DSN を **SilkTest Workbench にログイン** ダイアログ ボックスの **データベース** リストに表示される構成済みデータベース接続のリストに追加するには、**SilkTest Workbench データベースとして使用** チェック ボックスをオンにします。
データベース接続をはじめて構成するときは、必ずこのチェック ボックスをオンにしてください。既存の構成済みデータベース接続に対して **SilkTest Workbench データベースとして使用** チェック ボックスをオフにして **適用** をクリックすると、選択した DSN がダイアログ ボックスの **データベース** リストから削除されます。SilkTest Workbench は関連するデータベース接続のデータを保持しません。
5. **データベースの設定** セクションで、選択した DSN に対して適切な情報を指定します。
Access では、**データベース** ボックスは読み取り専用で、データベース ファイルの場所を示します。この値はODBC DSNから直接読み取られます。他の **データベースの設定** テキスト ボックスは、Access には適用されず、無効になっています。Oracle では、**サーバー** テキスト ボックスは読み取り専用で、データベース名のみが表示されます。この値はODBC DSNから直接読み取られます。
6. **データベース** ボックスに、適切な値を入力します。
SQL Server/MSDE では、**データベース** テキスト ボックスは編集可能で、適切なデータベース名を入力することができます。
7. **所有者** ボックスに、適切な値を入力します。
8. 認証の種類を選択します。
認証 オプションは、Oracle データベースまたは SQL Server/MSDE データベースにのみ適用されます。Windows NT 認証を使用するか、データベースのネイティブ認証機能を使って認証するかを選択できます。データベース認証を選択する場合、適切なテキスト ボックスにユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
9. **検証** をクリックして、指定したデータベース接続データを使用してデータベースに接続できることを確認します。

10.適用 をクリックして、データベース接続データを保存します。

11.閉じる をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

索引

D

Developer 2000 拡張 7
DSN
 Access 63
 Oracle 65
 SQL Server 64
 概要 63

E

Eclipse プラグイン 29, 32

F

Forte 拡張 7

G

Green Mountain Outpost (GMO) アプリケーション 7

I

Insurance Company Web アプリケーション 7

O

Oracle
 ORA_DBA グループの作成 60
 Oracle 認証の設定 58
 概要 55
 クライアント接続用のデータベースの準備 59
 クライアントの設定 59
 データベースの準備 61
 データベースの新規作成 58
 ドメインなしでの設定 61, 62, 63
 認証方式 56
 パスワード認証スキーマ 61
 ユーザーに対するサーバー アクセスの作成 60
 ユーザーの設定 56, 57, 60
Oracle OS 認証
 ユーザーの設定 56
Oracle データベース認証
 ユーザーの設定 57

P

PeopleSoft 拡張 7

S

Silk4J 29, 32
 手動インストール 32
Silk4NET 33, 36
 手動インストール 36
SilkMeter
 アンインストール 10
 インストール 10
 接続のテスト 12
 ライセンス サーバーへのインストール 10
SilkTest Workbench 22
SQL Server
 SQL Server 管理ユーザーの新規作成 53
 SQL Server データベースの新規作成 53
 概要 52
 データベースの準備 55
 ドメインなしでの設定 61, 62
 ユーザーの設定 54

T

TEMP 環境変数 13

V

Visual Studio プラグイン 33, 36

あ

アンインストール
 SilkTest 41

い

インストール
 Silk4J 29, 32
 Silk4NET 33, 36
 SilkTest 14, 18, 37
 SilkTest Workbench 22
 エージェント 25
 概要 6
 サイレント モード 42, 44, 47, 48, 49

インストール (続き)
 サンプル アプリケーション 40
 サンプル プロジェクト 40
 プロセスの概要 13

え

エラー コード 49

か

概要 6, 7, 9, 52, 55, 63
 Oracle データベースの構成 55
 SQL Server 52
 インストール 6
 インストールされる項目 7
 ライセンス 9
 管理者権限 7

さ

サイレント モード
 アンインストール 50
 インストール 42, 44, 47, 48, 49
 プロパティ ファイル 42
 サンプル アプリケーション 7, 40

し

実行可能ファイルのダウンロード 14

ち

チュートリアル 51

て

データ ソース名 (DSN)
 概要 63

データ ソース名 (DSN) の作成

Access 63
 Oracle 65
 SQLServer 64

データベース接続
 構成 66

データベース接続の構成 66
 データベース テスト機能 7
 デュアルブート マシン 6

と

ドメインなしでの設定
 Oracle の設定 63
 SQL Server 62
 ドメインなしでのデータベースの設定
 ユーザーの作成 62

は

パスワードの変更 66

ほ

ホスト ID 9

ら

ライセンス
 概要 9
 接続のテスト 12
 ポリシーの生成 9
 ライセンス サーバーの要件 10
 ライセンス ポリシーの生成 9

ろ

ログオン 66
 ログオン パスワード
 変更 66
 ログオン パスワードの変更 66